

遠隔管理 ソフトウェア

ユーザーマニュアル

目次

第 1 章 — 概要.....	1
1.1 特徴	1
第 2 章 — インストール.....	2
2.1 製品情報	2
製品の構成.....	2
システムの要求事項.....	2
2.2 インストール.....	3
2.3 アンインストール.....	5
第 3 章 — 開始.....	6
3.1 ログイン	6
3.2 デバイスの登録.....	7
3.3 リアルタイム映像監視.....	11
3.4 録画映像再生.....	12
第 4 章 — システムの概要.....	13
メニュー.....	14
サイトリスト.....	16
パネル.....	17
第 5 章 — 設定.....	19
5.1 デバイス	19
デバイスの管理.....	21
5.2 ユーザー(使用者).....	27
ユーザー管理.....	28
5.3 緊急録画	30
5.4 システム	31
5.5 画面分割	32
5.6 画面表示	33
5.7 映像設定	35

5.8 レポート	36
5.9 リアルタイムのイベント.....	37
5.10 ネットワーク	38
5.11 マップ.....	39
5.12 バックアップ/復元.....	40
第 6 章 — リアルタイム映像監視.....	41
6.1 映像監視.....	41
レイアウトの監視.....	44
レイアウトの順次監視.....	46
カメラの順次監視.....	48
6.2 マップ監視.....	50
6.3 カメラの制御.....	52
PTZ制御.....	54
映像拡大.....	56
イメージ効果.....	56
テキストイン ビューア.....	57
Googleマップ.....	57
速度グレース.....	58
自動車情報.....	58
6.4 マップの制御.....	59
ライブポップアップ.....	60
第 7 章 — 録画映像再生及び動画で保存.....	62
7.1 録画映像再生.....	62
モーションイベントの停止映像.....	68
オブジェクト/モーション検索.....	68
映像拡大.....	69
イメージ効果.....	70
Googleマップ.....	70
速度グレース.....	71
自動車情報.....	71
7.2 録画映像を動画で保存.....	72
専用のビューアーファイルで保存.....	73
AVIファイルで保存.....	76
第 8 章 — イベント処理.....	78

映像監視.....	80
映像再生.....	81
第 9 章 — システムの動作状態及びデバイス状態の監視.....	82
9.1 システムの動作状態の監視.....	82
9.2 デバイス状態の監視.....	83
第 10 章 — ログ検索.....	85
第 11 章 — マップエディター.....	87
11.1 マップの登録.....	87
11.2 マップ設定.....	88
第 12 章 — ネットワークキーボードを利用した制御.....	93
12.1 登録.....	93
12.2 接続.....	95
12.3 実行.....	95
映像監視.....	95
映像再生.....	97
12.4 ネットワークキーボードボタン.....	98
実行命令ボタン.....	98
iRASシステム制御ボタン.....	99
付録.....	101
OSD情報.....	101
トラブルシューティング(Q&A).....	102
索引.....	103

第 1 章 – 概要

本ユーザーマニュアルは、ネットワークカメラ、ネットワークビデオエンコーダー、ネットワークビデオレコーダー(NVR)及びデジタルビデオレコーダー(DVR)の遠隔ソフトウェアである Remote Administration System(以下、iRAS)の使用方法を記述しています。

1.1 特徴

iRASは、デバイスの映像監視及び録画映像の再生のためのソフトウェアで、次のような特徴があります。

- デバイスのリアルタイム映像の遠隔監視及び録画映像の遠隔再生
 - デバイスのイベント感知のリアルタイム通知及びイベント感知映像の遠隔監視
 - 監視映像の緊急録画及び緊急録画映像の再生
 - 最大1,024つのデバイス登録可能
 - ソフトウェアの遠隔アップグレード及びシステムの遠隔設定
 - デバイスのシステムログ表示
 - リアルタイム映像のマップ監視
 - H.264、MPEG-4、M-JPEG復元アルゴリズムをサポート
 - セキュリティのためにSSL機能をサポート
 - セキュリティのためにユーザーグループ別に権限設定
 - ユーザー中心の直感的なGUIを提供
- ✓ この製品はOpenSSLツールキットを利用するためにOpenSSLプロジェクトによって開発されたソフトウェアを含む(<http://www.openssl.org/>)。
- ✓ 本製品には一部のオープンソースを使用したソフトウェアが含まれています。そのソフトウェアのソースコードをご希望の方には提供できます。詳しい内容は、ソフトウェアCDに (OpenSourceGuide\OpenSourceGuide.pdf)またはユーザーマニュアルと一緒に提供されるオープンソースガイドを確認してください。

第 2 章 – インストール

2.1 製品情報

製品の構成

- ユーザーマニュアル
- ソフトウェアのインストールCD

システムの要求事項

推奨仕様

- OS: Microsoft® Windows® 7 64-bit (Home Premium、Professional、Ultimate) (Microsoft® Windows® 8 (Pro, Enterprise) 互換)
- CPU: Intel Core™ i5-3570K 3.30GHz以上
- RAM: 4GB以上
- VGA: ATI Radeon™ HD 7700またはNVIDIA GeForce GTX650以上 (1280x1024、32bpp以上)、マルチモニター
- ハードディスク: 6GB以上の空き容量
- LAN: 10/100Mbps Ethernet以上

最低仕様

- OS: Microsoft® Windows® XP Home SP3
 - CPU: Intel Core™ 2 Duo E7200 2.53GHz以上
 - RAM: 1.5GB以上
 - VGA: ATI Radeon™ HD 2400またはNVIDIA GeForce FX5500以上(1024x768、24bpp以上)
 - ハードディスク: 1GB 以上の空き容量
 - LAN: 10/100Mbps Ethernet以上
- ✓ iRASプログラムは32-bit OSで動作し、Microsoft® Windows® Vistaまたはその以降のOSの場合、64-bit OSでは32-bit互換モードでインストール及び動作します。

2.2 インストール

- ✓ PCのWindows節電機能を使用しないように設定して下さい(コントロールパネル → “電源オプション” → “ディスプレイの電源を切る時間の指定”と“コンピュータがスリープ状態になる時間を変更”を“適用しない”に設。Microsoft® Windows® XPの場合“電源設定” → “モニタの電源を切る”と“ハードディスクの電源を切る”を“なし”に設定)。



旧バージョンのiRASプログラムが既にインストールされている場合、ソフトウェアをアップグレードするかどうかを問うインストール画面が表示されます。その場合、インストール画面の指示に従ってソフトウェアをアップグレードしてください。

- ✓ Windowsのスタートメニューのコントロールパネルに移動後、“電源”オプションで、“モニタ節電モード”と“ハードディスク節電モード”を“使わない”に設定してください。

1. ソフトウェアのインストールCDを準備します。
2. PCでソフトウェアインストールCDの“Setup”のフォルダーの下にある“setup.exe”ファイルを実行します。

- ✓ Microsoft® Windows® Vistaまたはその上のOSで“ユーザーアカウント制御”画面が表示されることがあります。この場合、“許可”ボタンをクリックした後、設定画面の指示に従ってプログラムをインストールします。

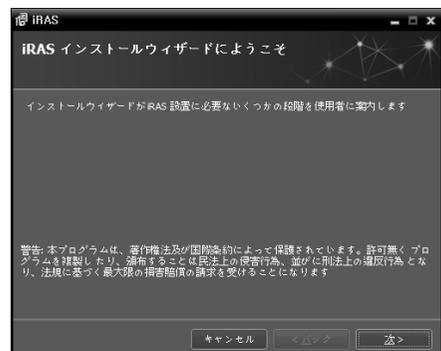
3. プログラム稼働時に使用する言語を選択した後、“OK”ボタンをクリックします。



- ✓ 選択した言語が正しくディスプレイされるためには、PCがその言語OSをサポートしていなければなりません。

- ✓ プログラムをインストールした後、言語を変更するには、プログラムを実行した後“システム”メニューの“iRAS設定” → “システム”を実行します。

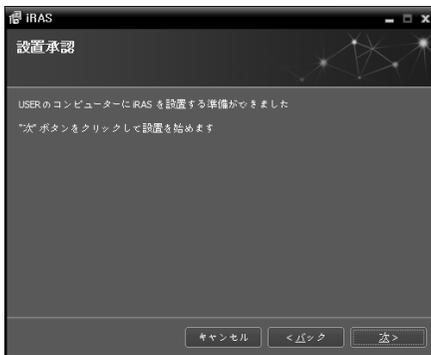
4. 次のインストール画面が表示されたら、“次”ボタンをクリックします。



5. プログラムがインストールされる経路を指定した後、“次”ボタンをクリックします。



6. 次のインストール画面が表示されたら、“次”ボタンをクリックします。



- ✓ “NET Framework”と“Visual C++Runtime Libraries”が自動的にインストールされ、インストールする時、時間が少々掛かる場合があります。ユーザーのPCに“NET Framework”及び“Visual C++Runtime Libraries”が既にインストールされている場合、本インストールのプロセスは省略されます。

7. 次のインストール画面が表示されたら、“閉じる”ボタンをクリックしてインストールを完了します。



8. 本プログラムは初期パスワードが設定されていません。パスワードなしにプログラムを使用することはセキュリティ上望ましくないため、できるだけパスワードを設定してご使用ください。



2.3 アンインストール

- 先に実行中のiRASプログラムを終了します。
- プログラムの実行が終了していない状態でソフトウェアをアンインストールすると、正常に削除されないことがあります。
- インストールフォルダーを強制的に削除する場合、ソフトウェア削除及び再インストールが不可能になるため、必ず次の手続きに従ってアンインストールしてください。
- “スタート”メニューの“iRAS”をクリックします。“Uninstall iRAS”をクリックします。

- 次のアンインストール画面が表示されたら、“Yes”ボタンをクリックします。



- 次のアンインストール画面が表示されたら、“Remove All”または“Do not remove”ボタンをクリックします。録画映像及び既存の設定をはじめ、システムに保存されていたすべてのデータを削除するには“Remove All”ボタンを、データを削除せずに保存するには、“Do not remove”ボタンをクリックします。



- ✓ 削除されたデータは復元することができません。
- 次のアンインストール画面が表示されたら、“確認”ボタンをクリックしてアンインストールを完了します。

第 3 章 – 開始

- ✓ 本ユーザーマニュアルで「iRASシステム」とは「iRAS」プログラムが実行中のPCのことであり、「デバイス」とは、ネットワークカメラ、ネットワークビデオエンコーダー、ネットワークビデオレコーダー(NVR)及びデジタルビデオレコーダー(DVR)のことです。

iRASソフトウェアをインストールするとデスクトップに「iRAS」及び「iRAS Run as administrator」(管理者IDでの実行)のジャンプ  アイコンが生成されます。「iRAS」又は「iRAS Run as administrator」(管理者IDでの実行)のジャンプアイコンをダブルクリックしてiRASプログラムを実行します。

iRASプログラムが実行中のPCに「管理者」IDではなく「標準ユーザー」IDでログインした場合、「iRAS Run as administrator」(管理者IDでの実行)のジャンプアイコンをダブルクリックしてください。もしくは、デバイスの脱着式/eSATA HDD又はSD (SDHC)メモリーカードが認識できません。



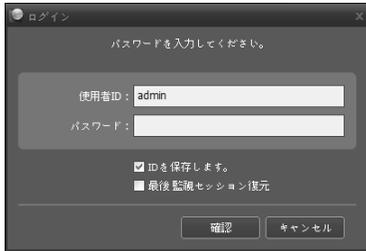
- 使用者ID、パスワード: PCの管理者アカウントの使用者ID及びパスワードを入力します。
- パスワード使用しない: PCの使用者IDにパスワードが設定されたいない場合、選択します。
- Save account information: この項目を選択すると、上記のID及びパスワードを保存します。

- ✓ iRASプログラムが実行中のPC仕様、または、ユーザーID設定により、ログインの制限がある恐れがあります。

3.1 ログイン

プログラム実行時、次のようにログインしなければなりません。

“スタート”メニューの“iRAS”をクリックします。→プログラムを実行した後、ログイン情報を入力します。

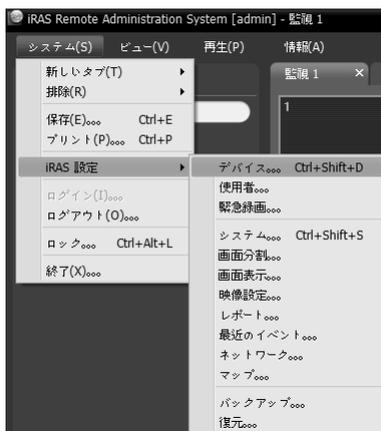


- 使用者ID、パスワード: 使用者ID及びパスワードを入力します。使用者IDの基本値は“admin”であり、初期パスワードはありません。ユーザーメニューで使用者ID及びパスワードが変更できます。詳しい内容は、“5.2 ユーザー(使用者)、ユーザー管理” (p. 28)部分を参照してください。
- ID保存します: この項目を選択するとログインする際、入力したIDを保存します。
- 最後監視セッション復元: 現在の監視パネルに以前の監視セッションを復元することができます。

3.2 デバイスの登録

iRASプログラムで提供する機能を使用するためには、まずiRASプログラムにデバイスを登録した後、該当するデバイスをデバイスグループに追加しなければなりません。

1. “システム”メニュー → “設定” → “デバイス”を選択します。



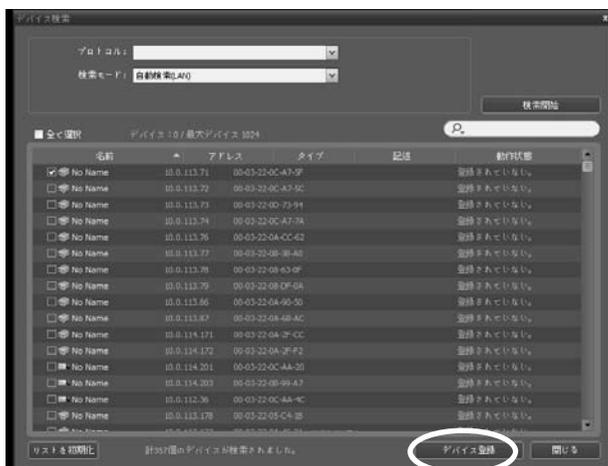
2. “サイト”パネルで“すべてのデバイス”をクリックした後、右のサイトリストのパネルの下段にある+ボタンをクリックします。“デバイス検索”画面が表示されます。



- プロトコル: 検索するデバイスのプロトコルまたはメーカーを選択します。

- リストで表示します。デバイスのIPアドレス帯域がiRASシステムのIPアドレス帯域と異なる場合、iRASプログラムは該当デバイスのIPアドレスを有効にしないものと見なします。この場合、デバイスのIPアドレスを変更すれば、デバイスの登録ができます。
 - 自動検索(LAN): LAN環境にあるデバイスをリストに表示します(一部モデルのDVRには対応していません)。
 - IPアドレス: デバイスのIPアドレスを入力します。二つ以上のデバイスを登録する場合、IPアドレスの範囲を入力して一度に検索することもできます。デバイスのネットワーク接続を設定する時、DHCPを使用しないことをお勧めします。DHCPを使用する場合、外部ネットワーク環境変化によってデバイス接続が正しく動作しない可能性があります。
 - FEN: デバイスがFEN (For Easy Network)機能を使用する場合、FENサーバーに登録されたデバイスの名前を入力します。デバイスが登録されているFENサーバーの情報が正しく設定されているか確認してください(“システム”メニュー → 設定 → “ネットワーク”設定 → “FEN”項目)。デバイスが登録されているFENサーバーの情報が正しくない場合はデバイスが検索できません。
 - ドメイン名: デバイスがドメイン名サービスを使用する場合DNSサーバーに登録されたデバイスの名前を入力します。
 - デバイス情報ファイル: デバイス接続情報の保存されている.xmlファイルを呼び出し、該当デバイスをリストに表示します。 .xmlファイルに関する詳しい内容は、iRASソフトウェア購入先にお問い合わせください。
- : リストで各デバイスの名前の横にあるチェックボックスを選択して、登録するデバイスを選択します。“全て選択”を選ぶとリストにあるすべてのデバイスを選択します。

3. “デバイス検索”画面の下段の“デバイス登録”ボタンをクリックします。



- ・ 名前、アドレス、デバイスの種類: 選択したデバイスの名前、IPアドレス及び種類を表示します。デバイス設定時に“デバイス名同期化”オプションが選択されている場合、デバイス名がデバイスでの設定によって自動的にアップデートされます。
 - ・ ID、パスワード: 遠隔接続のために各デバイスで設定したユーザーID及びパスワードを入力します。
 - ・ すべてのデバイスに適用: 1つ以上のデバイスを選択した場合、選択したデバイスのユーザーID及びパスワードが全て同じであれば、入力したユーザーID及びパスワードを全てに適用することができます。
- ✓ デバイスがDVRの場合、DVRの仕様及びバージョンによってポート番号の入力が追加要求されることがあります。
 - ✓ デバイスが4チャンネルネットワークビデオエンコーダーである場合、カメラ使用と関係なく、自動で4つのカメラが全て登録されます。
4. “サイト”パネルで“デバイスグループ”をクリックした後、“サイト”パネルの下段にある **+** ボタンをクリックします。“デバイスグループの追加”画面が表示されます。



- ・ プロトコル: デバイスグループの名前を入力します。
- ・ 場所: 該当するデバイスグループが所属する上位デバイスグループを選択します。
- ・ グループに追加するデバイスを選択してください、選択されたデバイスのリスト: 左側でカメラの横にあるチェックボックスを選択すると、選択したカメラが右側に追加されます。

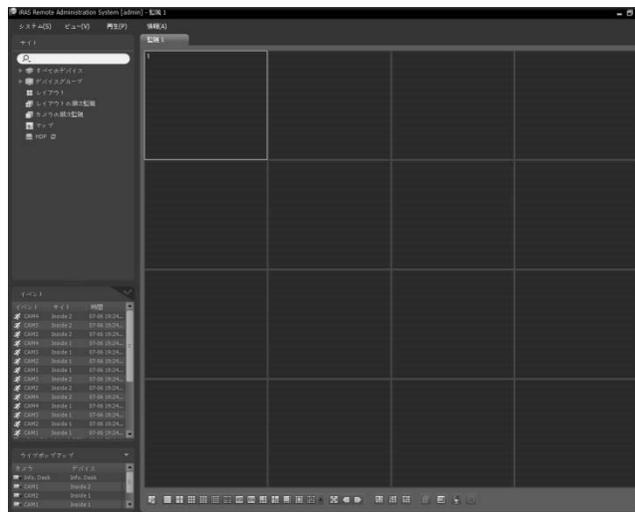
“確認”ボタンをクリックすると、該当するデバイスグループが登録されます。

5. デバイスがデバイスグループに正しく追加されているか確認します。“サイト”パネルで“デバイスグループ”をクリックした後“デバイスグループ”の左側の矢印ボタン(▶)をクリックします。登録されたデバイスグループをクリックすると、該当するデバイスグループに追加されたデバイスリストが右側に表示されます。



登録されたデバイスグループを選択した後、“サイト”パネルの下段にある ボタンをクリックすると“デバイスグループ修正”画面が表示され、該当するデバイスグループを修正することができます。詳しい内容は、“5.1 デバイス、デバイスの管理” (p. 21)部分を参照してください。

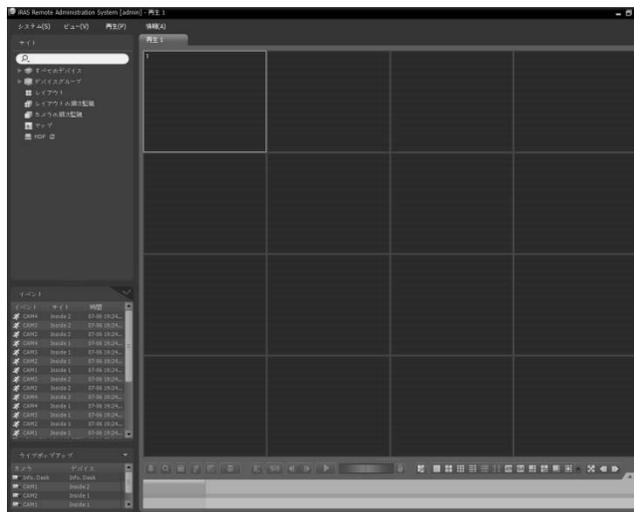
3.3 リアルタイム映像監視



1. “サイト”リストでデバイスグループにデバイスが追加されているか確認します。
2. パネルタブで監視タブをクリックします。→“サイト”リストで接続するサイトを選択した後、監視画面の上にマウスでドラッグ&ドロップします。選択したサイトのリアルタイム映像が画面に表示されます。詳しい内容は、“第6章 — リアルタイム映像監視” (p. 41)部分を参照してください。



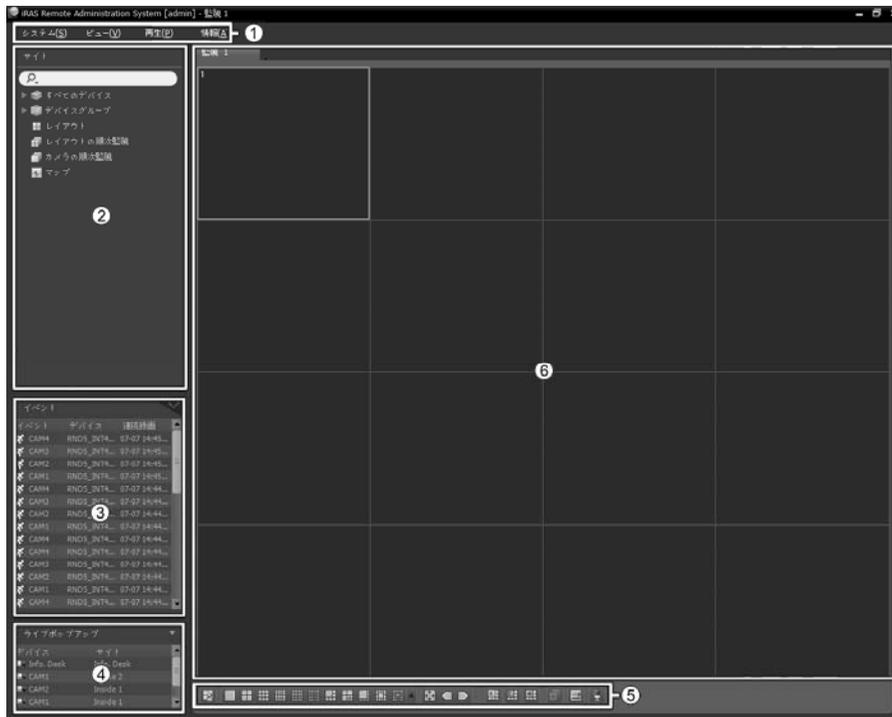
3.4 録画映像再生



パネルタブで再生タブをクリックします。→“サイト”リストで接続するサイトを選択した後、再生画面の上にマウスでドラッグ&ドロップします。選択したサイトの録画映像が画面に表示されます。詳しい内容は、“第7章 — 録画映像再生及び動画で保存” (p. 62)部分を参照してください。



第 4 章 – システムの概要



- ① メニュー“メニュー”(p. 14)部分を参照してください。
- ② サイトリスト: マウスでドラッグ&ドロップを利用して登録されたサイトに接続します。詳しい内容は、“サイトリスト”(p. 16)部分を参照してください。
- ③ リアルタイムのイベントのリスト: 登録されたデバイスから、通知を受けたイベントのリストを表示します。♥ ボタンをクリックすると“緊急イベント”パネルが表示されます。詳しい内容は、“5.9 リアルタイムのイベント”(p. 37)部分を参照してください。
- ④ ライブポップアップリスト: 現在iRASプログラムに挙がっているポップアップ画面のリストを表示します。ライブポップアップに関する詳しい内容は、“6.4 マップの制御、ライブポップアップ”(p. 60)部分を参照してください。
- ⑤ パネルのツールバー/タイムテーブル: パネルによってツールバーまたはタイムテーブルを表示します。詳しい内容は、“6.3 カメラの制御”(p. 52)または、“7.1 録画映像再生”(p. 62)部分を参照してください。
- ⑥ パネル: 選択したタブの映像またはリストを表示します。詳しい内容は、“パネル”(p. 17)部分を参照してください。

メニュー

システム



- 新しいタブ: パネルを追加します。監視、再生パネルの場合合わせて最大8つのパネルが支援されます。マップパネルの場合、最大2つ、レポート、動作状態、デバイス状態パネルの場合、それぞれ1つのパネルが支援されます。
- 排除: 選択したデバイス、カメラまたはすべてのカメラを監視画面または再生画面から排除します。
- 保存、プリント: 選択したタブのパネルに表示される映像またはリストを保存または印刷します(一部パネルの場合、サポートされない)。
- iRAS 設定: 基本設定を変更します。詳しい内容は、“第5章 — 設定” (p. 19)部分を参照してください。
- ログイン、ログアウト: プログラムにログインまたはログアウトします。
- ロック: iRASプログラムをロックします。プログラムがロックされるとプログラムを使用することができなくなり、パスワードの入力画面が表示されます。パスワードを入力するとロックが解除されます。
- EXIT: プログラムを終了します。

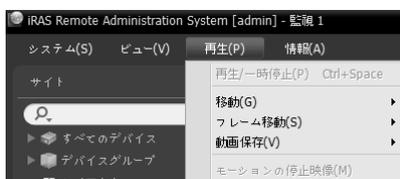
ビュー



- ユーザーレイアウト登録: 現在の画面分割を保存します。
- フルスクリーン: 選択した監視または再生パネルをフルスクリーンで表示します。
- 全画面 + ツールバー: 選択した監視または再生パネルをパネルツールバーと一緒に全画面で表示します。
- 画面分割: 画面分割を変更することができます。
- 前のカメラ、次のカメラ: 前または次のカメラグループに移動します。
- ホットスポット設定: 選択したカメラ画面をホットスポット画面で設定します。詳しい内容は、“6.1 映像監視、ホットスポット設定” (p. 42)部分を参照してください。
- イベントスポット設定: 選択したカメラ画面をイベントスポット画面で設定します。詳しい内容は、“6.1 映像監視、イベントスポット設定” (p. 43)部分を参照してください

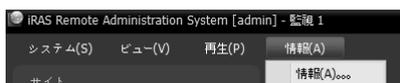
- マップイベントスポット設定: 選択したカメラ画面をマップイベントスポット画面で設定します。詳しい内容は、“6.1 映像監視、マップイベントスポット設定” (p. 43)部分を参照してください。
- レイアウトの順次監視: レイアウトの順次監視を開始または終了します。詳しい内容は、“6.1 映像監視、レイアウトの順次監視” (p. 46)部分を参照してください。
- Emergency Event Panel: 緊急イベントパネルを見せます。詳しい内容は、“第 8 章 — イベント処理” (p. 78)部分を参照してください。
- 遠隔地点パネル: フローティングされたパネル又は全体画面で地点リストを表示、または非表示することができます。本機能は一部パネルのみ対応します。

再生



- 再生/一時停止: 録画された映像を再生したり映像再生を一時停止します。
- 移動: 再生する映像の時点を選択します。詳しい内容は、“7.1 録画映像再生” (p. 62)部分を参照してください。
- フレーム移動: フレームまたは時間単位で、前または次の映像に移動します。
- 動画保存: 録画映像を専用のビューアーファイル(.exe)またはAVIファイル(.avi)で保存します。
- モーションの停止映像: イベントベース録画(イベント及びプリイベント)中に録画された映像の停止映像を再生パネルに表示します。詳しい内容は、“7.1 録画映像再生、モーションイベントの停止映像” (p. 68)部分を参照してください。

情報



- 情報: ソフトウェアのバージョンまたは著作権の情報を表示します。

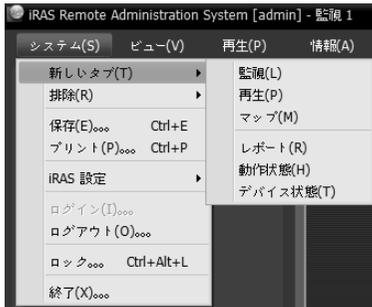
- HDP: iRASシステムにデバイスの脱着式/eSATA HDD又はSD (SDHC)メモリカードが接続されている場合、該当HDD又はSD (SDHC)メモリカードのリストを表示します。デバイスの脱着式HDDをiRASシステムに接続するには、SATA <-> USB 2.0 コンバータ又はIDE <-> USB 2.0コンバータが、eSATA HDDはeSATAケーブルが、SD (SDHC)メモリカードはSD (SDHC)メモリカードリーダーが必要です。詳しい内容は、iRASソフトウェアの購入先にお問い合わせください。リストでマウスの右ボタンをクリックすると該当HDD又はSD (SDHC)メモリカードの保存容量情報が表示されます(フォルダの経路、ドライブの種類、デバイスのモデル、録画範囲、容量など)。
- 緊急録画: 緊急録画されたデバイスがある場合、該当デバイスのリストを表示します。

パネル



- 監視: リアルタイム映像を表示します。詳しい内容は、“第 6 章 — リアルタイム映像監視” (p. 41)部分を参照してください。
 - 再生: デバイ스에保存されていた録画映像又はiRASプログラムで緊急録画された映像を再生することができます。詳しい内容は、“第 7 章 — 録画映像再生及び動画で保存” (p. 62)部分を参照してください。
 - マップ: マップを表示します。詳しい内容は、“6.2 マップ監視” (p. 50)部分を参照してください。
 - レポート: iRASプログラムのログを表示します。詳しい内容は、“第 10 章 — ログ検索” (p. 85)部分を参照してください。
 - 動作状態: デバイスグループに登録されたデバイスの動作状態を点検し、その結果を表示します。詳しい内容は、“9.1 システムの動作状態の監視” (p. 82)部分を参照してください。
 - デバイス状態: 知りたいデバイスの状態をリアルタイムで表示します。詳しい内容は、“9.2 デバイス状態の監視” (p. 83)部分を参照してください。
- ✓ パネルタブでマウスの右ボタンをクリックし、タブの名前を変更することができます。

パネルの追加及び削除



“システム”メニューをクリックします。→“新しいタブ”をクリックします。→追加するパネルを選択します。

各タブの横の ボタンをクリックするとそのパネルが削除されます。

パネルのフローティング及び固定

パネルタブをクリックした後、マウスでドラッグ&ドロップすると、該当するパネルが画面上にフローティング(浮上)します。フローティングされているパネルタブをクリックした後、元の位置にマウスでドラッグ&ドロップすると、該当位置に固定します。マウスでドラッグ&ドロップを利用してパネルタブの順序を変更することもできます。

- フローティングされたパネル最大化: フローティングされたパネルの上右側のスクリーン最大化/以前サイズ復元ボタンをクリックするとパネルを最大化することや以前のサイズに復元することができます。
- フローティングされたパネルに地点リスト表示/非表示: フローティングされたパネルの画面でマウス右側ボタンをクリックし、画面メニューで“遠隔地点パネル”を選択するとフローティングされたパネルに地点リストを表示、または非表示することができます。本機能は一部パネルのみ対応します。

第 5 章 – 設定

“システム”メニュー → “設定” → “デバイス”を選択します。



- Always On Top: iRAS設定画面を、スクリーンの一番前に表示します。

5.1 デバイス

サイトを登録及び管理します。



-  (多重ファームウェアアップグレード): 複数のデバイスのソフトウェアを一括にアップグレードすることができます。詳しい内容は、“デバイスの管理、ファームウェアアップグレード” (p. 25)部分を参照してください。
-  (多重遠隔設定): 設定ファイルを用いて複数のデバイスの設定が一括に変更できます。詳しい内容は、“デバイスの管理、デバイスを遠隔設定” (p. 24)部分を参照してください。
-  (ネットワークキーボード設定): ネットワークキーボードを登録、削除、修正することからネットワークキーボードを利用してiRASプログラムを制御することができます。詳しい内容は、“第 12 章 — ネットワークキーボードを利用した制御” (p. 93)部分を参照してください。
- サイト(サイトパネル): iRASプログラムでサポートするサイトグループのリストを表示します。詳しい内容は、“サイト” (p. 20)部分を参照してください。
- 名前、グループ、アドレス、タイプ、記述(サイトリストのパネル): 各サイトグループに登録されたサイトリスト及び情報を表示します。デバイス名の横の矢印ボタン()をクリックすると、該当するデバイスでサポートするビデオ入力、アラーム入力/出力およびオーディオ入力/出力の情報を表示します。
-  (検索): 各グループに登録されたサイトを検索します。“サイト”ネルでサイトグループを選択した後、検索語を入力します。選択したグループ内で入力された部分と一致する結果が検索されると、その結果を表示します。
-  (追加)、 (削除)、 (変更): サイトを登録するか、削除または変更します。サイトを選択した後、マウスの右ボタンをクリックすると表示されるメニューを利用してサイトを該当グループから削除したり、登録情報を変更することもできます。選択したサイトがデバイスである場合、デバイスに接続してデバイスの設定を変更したり、デバイスのソフトウェアをアップグレードすることができます。“すべてのデバイス”でデバイスを削除する場合、デバイスを再登録してもiRASシステムは他のデバイスで認識します。デバイス及びデバイスグループの登録に関する詳しい内容は、“3.2 デバイスの登録” (p. 7)部分を、レイアウト及び順次監視登録に関する詳しい内容は、“第 6 章 — リアルタイム映像監視” (p. 41)部分を参照してください。

サイト

- すべてのデバイス: 登録されたすべてのデバイスリストを表示します。デバイスの登録に関する詳しい内容は、“3.2 デバイスの登録” (p. 7)部分を参照してください。
- デバイスグループ: 登録されたデバイスグループのリストを表示します。希望するカメラの映像を監視したり、再生することができます。iRASプログラムを用いて機能を実行するためには、デバイスが登録されていなければならない、デバイスグループに該当するデバイスを追加しなければなりません。デバイスグループの登録に関する詳しい内容は、“3.2 デバイスの登録” (p. 7)部分を参照してください。
- レイアウト: 登録されたレイアウトのリストを表示します。多数のカメラの映像をあらかじめ設定されたレイアウトで監視したり再生することができます。詳しい内容は、“6.1 映像監視、レイアウトの監視” (p. 44)部分を参照してください。

- レイアウトの順次監視: 登録されたレイアウトの順次監視のリストを表示します。多数のカメラの映像をあらかじめ設定された2つ以上のレイアウトで順次監視することができます。詳しい内容は、“6.1 映像監視、レイアウトの順次監視” (p. 46)部分を参照してください。
- カメラの順次監視: 登録されたカメラの順次監視のリストを表示します。多数のカメラの映像を同じカメラ画面で順次監視することができます。詳しい内容は、“6.1 映像監視、カメラの順次監視” (p. 48)部分を参照してください。
- マップ: 登録されたマップのリストを表示します。カメラ映像、イベント感知、入/出力デバイスの状態をマップで監視することができます。詳しい内容は、“6.2 マップ監視” (p. 50)部分を参照してください。

デバイスの管理

デバイス情報を修正したり、デバイスをリストから削除することができます。また遠隔でデバイスの設定を変更したり、デバイスのソフトウェアをアップグレードできます。“システム”メニュー→“設定”→“デバイス”を選択します。

“サイト”パネルからデバイスグループを選択した後、サイトリストのパネルでデバイスをクリックします。サイトリストのパネルの下段にある ボタンをクリックするか、マウスの右ボタンをクリックすると、デバイスメニューが表示されます。



- デバイス修正: デバイスの接続情報を設定します。詳しい内容は、“デバイス修正” (p. 19)部分を参照してください。
- デバイスを遠隔設定: 遠隔でデバイスの設定が変更できます。詳しい内容は、“デバイスを遠隔設定” (p. 24)部分を参照してください。

- **ファームウェアアップグレード:** 遠隔でデバイスのソフトウェアをアップグレードすることができます。詳しい内容は、“ファームウェアアップグレード” (p. 25)部分を参照してください。
- **遠隔デスクトップ:** VNC 機能を利用してデバイスに接続できます。この接続をするためには、デバイスにVNC機能が設定されている必要があります。iRASプログラムでデバイス登録をする時は、VNC遠隔接続のためのポート番号とパスワードが登録されていなければなりません。iRASプログラムでのVNC遠隔接続のためのポート番号とパスワードの登録に関する詳しい内容は、“デバイス修正、遠隔デスクトップ” (p. 23)部分を参照してください。デバイスの仕様とバージョンによって本機能がサポートされない場合もあります。
- **映像プレビュー:** デバイスの映像をプレビューすることができます。
- **デバイス削除:** デバイスをiRASプログラムから削除します。

デバイス修正

デバイスメニューで“デバイス修正”を選択します。

情報

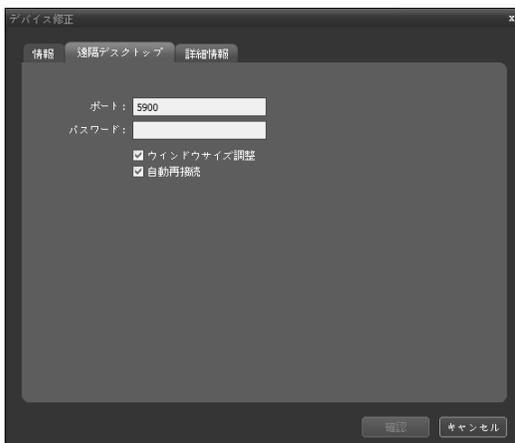
ポート	タイプ	ポート
8200	アドミンポート	
8016	監視ポート	
10019	検索ポート	

デバイス接続のための基本情報を変更することができます。

- **名前:** デバイスの名前を修正します。他のデバイスと重複する名前が使えます。
 - デバイスを使用しない: 該当するデバイスは登録されていないものと見なされます。
 - デバイス名同期化: デバイスより設定した名をiRASプログラムに自動的に適用します。
 - デバイスリアルタイムモニタリング: 登録された全てのデバイスに対し、iRASプログラムに表示されるデバイスのイベント情報及びデバイス情報を自動的にアップデートします。ただし、複数台のiRASシステムから該当デバイスに同時にアクセスする場合、該当デバイスの対応できる最大同時接続者数によってデバイスに接続できない場合があります。項目を選択しなければ、現在監視中のデバイスについてのイベント情報及びデバイス情報のみを自動的にアップデートします。

- アドレスタイプ: デバイスのアドレスタイプを選択します。
 - 自動検索(LAN): デバイスのアドレスを修正する時、デバイスのmDNS番号を入力します。
 - IPアドレス: デバイスのアドレスを修正する時、デバイスのIPアドレスを入力します。
 - FEN: デバイスがFEN (For Easy Network)機能を使用する場合、デバイスのアドレスを入力する時FENサーバーに登録されたデバイスの名前を入力することができます。入力した名前は該当するデバイスのFEN設定で設定した名前と同じでなければなりません。
 - ドメイン名: デバイスがドメイン名サービスを使用する場合、デバイスのアドレスを入力する時DNSサーバーに登録されたデバイスのドメイン名を入力することができます。
- アドレス: アドレスタイプで選択したアドレスのタイプによりデバイスのアドレスを修正します。
- ポート: ポート番号を修正します。入力したポート番号は該当するデバイスで遠隔接続(Admin)、遠隔監視(Watch)、録画(Record)及び双方向オーディオ(Audio)のために設定したポート番号と同じでなければなりません。
- ID、パスワード: 該当するデバイスに接続するためのユーザーID及びパスワードを修正します。
- 接続テスト: ボタンをクリックすると、上で入力した情報で該当デバイスへの接続が行われるかテストすることができます。

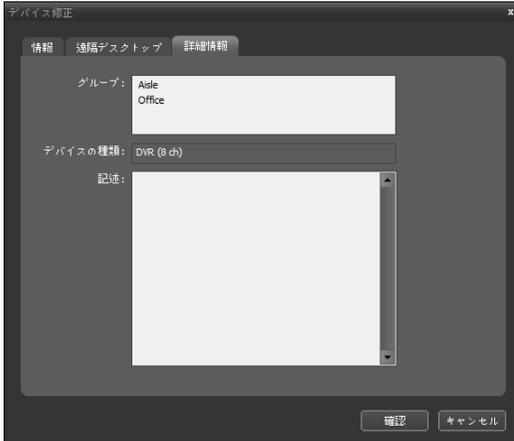
遠隔デスクトップ



VNC遠隔接続のためのポート番号とパスワードを登録することができます。

- ポート、パスワード: VNC遠隔接続のためのポート番号とパスワードを入力します。
- ウィンドウサイズ調整: VNCビューア画面のサイズをウィンドウサイズに合わせます。
- 自動再接続: VNC遠隔接続が解除されている場合、自動的に再接続します。

詳細情報



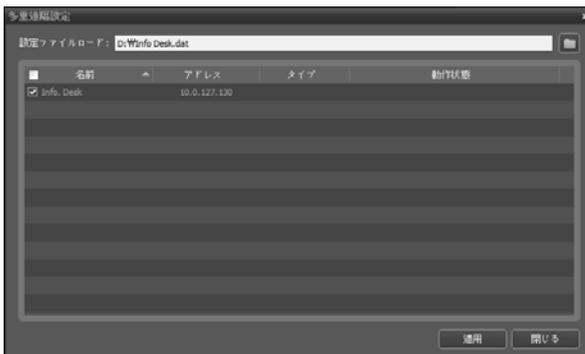
デバイスの登録情報を表示します。

- グループ、サービス: デバイスが登録されたデバイスの映像を録画する録画サービスリストを表示します。
- デバイスの種類: デバイスの種類を表示します。

デバイスを遠隔設定

デバイスメニューで“デバイスを遠隔設定”を選択して、遠隔でデバイスの設定が変更できます。一部の設定の場合、遠隔設定に対応しないこともあります。デバイス設定に関する詳しい内容は、該当デバイスのユーザーマニュアルを参照してください。

設定ファイルを用いて複数のデバイスの設定が一括に変更できます。支点パネル上段の  (多重遠隔設定) ボタンをクリックすると以下のような設定窓が現れます。



右側上段の  ボタンをクリックしてから設定ファイルを選択します。選択した設定ファイルが適用可能なデバイスのリストが表示されます。この機能はデバイスのモデルによって支援されない可能性があり、設定ファイルが適用可能なデバイスが登録されていても支援されないデバイスである場合、リストに表示されません。デバイスを選択してから下段の“適用”ボタンをクリックするとそのデバイスの設定を変更します。

ファームウェアアップグレード

アップグレードファイルが準備された場合、デバイスメニューで“ファームウェアアップグレード”を選択し、遠隔でデバイスのソフトウェアをアップグレードすることができます。

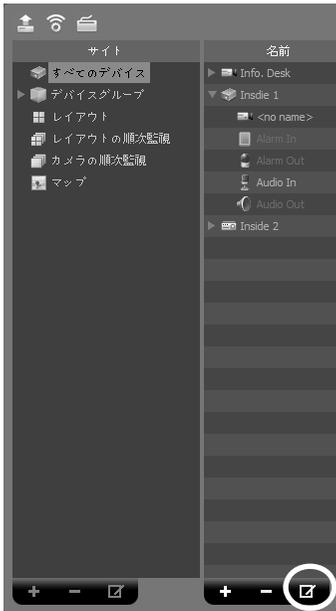
複数のデバイスのソフトウェアを一括にアップグレードすることができます。支点パネル上段の  (多重ファームウェアアップグレード) ボタンをクリックすると以下のような設定窓が現れます。



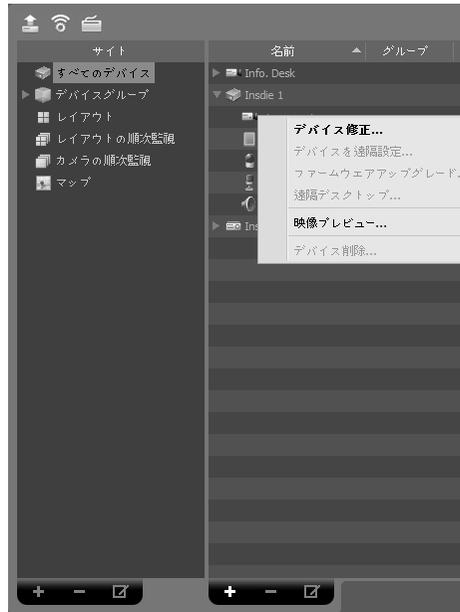
右側上段の  ボタンをクリックしてからアップグレードファイルを選択します。デバイスがPC基板DVRである場合、“PC基板DVR”を選択してから  ボタンをクリックします。選択したファイルでアップデートが可能なデバイスのリストが表示されます。“全てのデバイスを表示”を選択すると登録された全てのデバイスのリストが表示されます。デバイスを選択してから下段の“アップグレード”ボタンをクリックするとそのデバイスをアップグレードします。

入力/出力デバイス情報の修正

“サイト”パネルで“すべてのデバイス”を選択した後、サイトリストのパネルでデバイスの名前の横にある矢印ボタン()をクリックします。該当するデバイスでサポートするビデオの入力、アラームの入力/出力及びオーディオの入力/出力のリストで、入力/出力デバイスをクリックします。サイトリストのパネルの下段にある  ボタンをクリックするか、マウスの右ボタンをクリックして“デバイス修正”を選択します。“デバイス修正”画面が表示されます。



または



- **デバイス名:** 該当する入力/出力デバイスの名前を修正します。他の入力/出力デバイスと重複する名前が使えます。該当する入/出力デバイスが接続されたデバイス名が更新される時、自動的に更新されます。
- **連動されているオーディオチャンネル:** 該当カメラと連動してオーディオを録音するには、オーディオチャンネルを選択します(入/出力デバイスがカメラである場合のみ支援)。そのカメラの映像が録画される場合選択されたオーディオチャンネルのオーディオと一緒に録音されます。
- **連動デバイス:** 入/出力デバイスと連動してカメラ映像をイベントスポット画面に出力するためにはそのカメラチャンネルを選択します(その入/出力デバイスがアラーム入力またはオーディオ入力デバイスの場合のみ支援)。アラームインまたはオーディオイベント感知時、選択したチャンネルの映像がイベントスポット画面に表示されます。

5.2 ユーザー(使用者)

ユーザーまたはユーザーグループを登録及び管理します。



- **グループ(グループパネル):** 登録されたユーザーグループのリストを表示します。“Administrators”グループはすべての機能に対する権限を持っており、修正することはできません。
- **名前、ID、Eメール、電話番号、記述(ユーザーリストパネル):** 各ユーザーグループに登録されたユーザーのリスト及び情報を表示します。
- **[検索欄]** (検索): 各グループに登録されたユーザーを検索します。“グループ”パネルからユーザーグループを選択した後、検索語を入力します。選択したグループ内で入力された部分と一致する結果が検索されたら、その結果が表示されます。
- **+ (追加)、- (削除)、[編集]** (変更): ユーザーグループまたはユーザーを登録するか削除または変更します。

ユーザー管理

iRASプログラムの各機能に対する権限をユーザーによって互いに異なるように設定することができます。ただし、“Administrators”グループはすべての機能に対する権限を有しており、修正することができません。

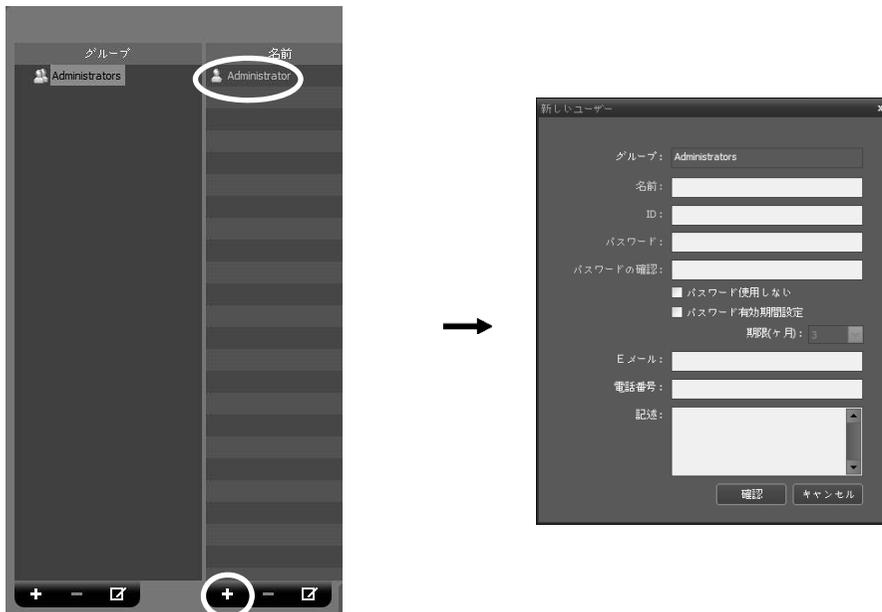
1. ユーザーグループパネルの下段にある **+** ボタンをクリックします。“ユーザーグループの追加”画面が表示されます。



- 情報のタブ: ユーザーグループの名前を入力します。
- デバイスへのアクセス権現タブ: 各デバイスに対するアクセス権限を付与したり制限します。
- 権限のタブ: 各機能に対する権限を与えたり、制限します。

“確認”ボタンをクリックすると、該当するユーザーグループが追加されます。

2. ユーザーグループパネルで追加されたユーザーグループをクリックした後、ユーザーパネルの下段にある **+** ボタンをクリックします。“新しいユーザー”画面が表示されます。



- 名前: ユーザーの名前を入力します。
- ID、パスワード、パスワードの確認: iRASプログラムを実行するための固有のユーザーID及びパスワード(空白なしで8桁~16桁)を入力します。
- パスワード使用しない: iRASプログラムを実行する時、パスワードなしでログインできます。
- パスワード有効期間設定: パスワードの有効期間を設定します。有効期間が過ぎるとログインする時これをお知らせします。
- Eメール: Eメールアドレスを入力します。Eメールアドレスには、“@”が必ず含まれていなければなりません。
- 電話番号、記述: 電話番号及び記述を入力します。電話番号には数字と“-”のみ入力できます。

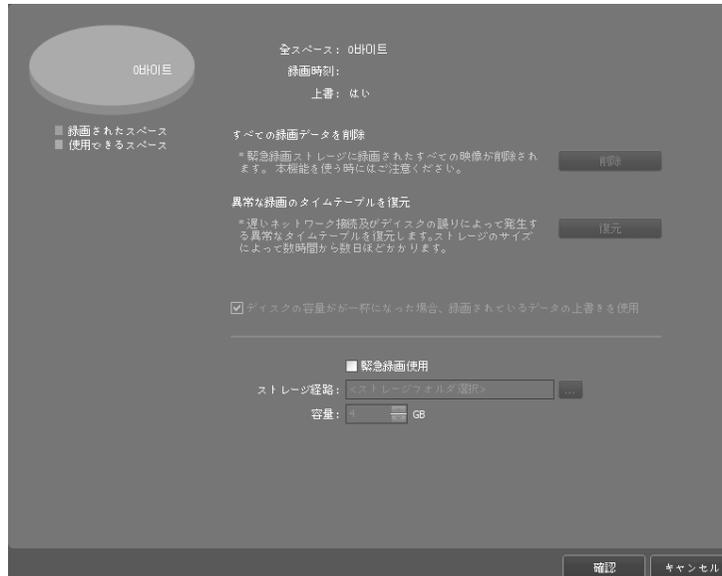
“確認”ボタンをクリックします。

3. 登録されたユーザーグループまたはユーザーを選択した後、 ボタンをクリックしてユーザーグループまたはユーザー情報を変更することができます。

5.3 緊急録画

ユーザーが映像監視中に手動で録画を開始または停止することができます。

- ✓ 監視映像が監視タブに見えない場合、緊急録画を行いません。例えば、緊急録画中、画面のレイアウトを変更し、緊急録画中の映像が見えなくなった場合、該当映像に対する、緊急録画は中止されます。



- 全スペース: 緊急録画のために割り当てられた保存スペースの全体容量及び残りの容量を表示します。
- 録画時刻: 割り当てられた保存スペースに緊急録画された時刻を表示します。
- 上書: 上書きを使用するかどうかを表示します。
- すべての録画データを削除: 緊急録画された映像をすべて削除します。
- 異常な録画のタイムテーブルを復元: 録画時にエラーが生じた場合、録画データと録画データのタイムテーブル情報が一致しないことがあり、このためiRASプログラムのタイムテーブルが誤った情報を表示することがあります。この場合、ボタンをクリックすると、タイムテーブル情報を復元し、正しい録画データを表示することができます。
- ディスクの容量が一杯になった場合、録画されているデータの上書きを使用: 割り当てられたストレージが一杯になった場合、古いデータから削除され、新しいデータが録画されます。
- 緊急録画使用: 緊急録画を行うことができます。
 - ストレージ経路: 緊急録画のためのストレージフォルダーの経路を設定します。
 - 容量: 割り当てるストレージの容量を設定します(最小4GB~最大64GB)。

緊急録画は次のように行われます。

監視画面で録画する映像が表示されたカメラ画面を選択した後、カメラ画面の制御ツールバーで●(緊急録画)ボタンをクリックします。該当カメラ画面の右上段に緊急録画OSD(オレンジ色●)が表示され、録画を開始します。●(緊急録画)ボタンを再びクリックすると録画が停止します。



5.4 システム

一般

言語: 日本語 (Japanese)

Windows開始時iRAS自動実行

CPU使用率ポップアップ: 使用しない。

自動接続

プログラム起動時、自動ログイン

自動ログイン時、最後監視セッション復元

オート ロック 1時間

* 指定された時間にキーボードまたはマウス入力がない場合、画面がロックされます。

日付/時刻

日付/時刻: 2013-01-30 14:35:26

日の形式: YYYY-MM-DD

時間形式: 24時間

スタート曜日: 日曜日

初期化
確認
キャンセル

- 言語: プログラム稼動時に使用する言語を選択します。変更された設定は次の実行の時から適用されます。
- Windows開始時iRAS自動実行: Windows開始時にiRASプログラムを自動的に実行します。
- CPUの使用量ポップアップ: iRAS システムのCPUの使用量が設定した値を超える場合は警告メッセージが表示されます。
- プログラム起動時、自動ログイン: 以前接続した時のログイン情報を用いてiRASプログラム起動時、自動にログインします。“自動ログイン時、最後監視セッション復元”を選択すると現在の監視パネルに以前の監視セッションを復元します。
- 自動: ログインの状態を設定した時間でマウスキーボードの入力がない場合、設定によりiRASプログラムが自動でログアウトされるか、iRASシステムがロックされます。

- 日付/時間: 現在の日付と時間を表示します。
- 日付形式、時間形式: システムの日付及び時刻の表示形式を設定します。
- スタート曜日: 一週間の最初の曜日を設定します。

5.5 画面分割



- 側面パネルの位置、マップサイドの位置: 側面パネルの位置及びマップパネルでルートマップリストの位置を設定します。
- 監視のデフォルト値、再生の初期値、マップの初期値: 監視画面、再生画面及びマップ画面の基本画面分割を表示し、“分割設定”ボタンをクリックして基本の画面分割を変更することができます。
- 選択されたカメラをベースとして画面分割を変更: 画面分割が変更される時、現在の画面で選択したカメラが変更される分割画面の最初のカメラ画面に位置します。
- 自動的にフォーマットの拡張: 接続されたカメラの台数に合わせて、分割画面を自動的に変更します。但し、カメラの個数が減った場合は変更しません。

5.6 画面表示



- 画面表示OSD: カメラ画面でのOSD(On Screen Display)の表示方法及び表示するか否かを設定します。

- 不透明度: スライダーを用いて、OSDの不透明度を調整することができます。
- テキスト枠表示: カメラ名や日付などテキストOSDのテキスト枠に境界線(黒色)が表示されます。
- 選択された枠なし: 監視または、再生の時、選択したカメラ画面の枠を表示しません。
- 監視、検索: 画面に表示されるOSD情報を設定します。

- カメラ名: iRASプログラムで設定したカメラ名を表示します。
- タイトルバー: カメラ画面の上段にタイトルを表示するエリアを区分します。
- 録画タイトル: 映像録画の際、設定されていたカメラのネームを表示します。
- ステータスアイコン: ステータスOSDを表示します(●(オレンジ色): 緊急録画中、P: PTZ、📄: カメラ順次監視、🔍: 映像拡大、🔊: リスニングまたはトーク)。

●(オレンジ色): 緊急録画中

P: PTZ

🔍: 映像拡大

📄: カメラ順次監視

🔊: リスニングまたはトーク

🎛️: カラーコントロール機能使用(再生映像のみ対応)

👤: イメージ効果機能使用

🌐: ネットワークキーボードにより画面停止(監視映像のみ対応)

- PTZ: PTZカメラ制御時、画面にPTZ制御ボタンを表示します。
 - 日付、 時間: iRASシステム日付および時間を表示します。
 - イベント警告、イベント警告の継続時間: デバイスでイベントが発生すると、該当するカメラのタイトルバーを赤色で表示します。イベント警告の表示は、イベント発生後に設定された“イベント警告の継続時間”が過ぎると解除され、“手動で解除”に設定すると、該当するカメラ画面選択時に解除されます。
 - モーションブロック: デバイスで、モーション感知イベントが発生すると、モーションが感知されるエリアを画面上に赤色のブロックで表示します(ネットワークビデオエンコーダーの場合にのみ対応)。
 - 支店名: デバイス名を表示します。カメラ名とデバイス名が違う場合のみ表示されます。
 - テキストインデバイス: デバイスにテキスト-インイベントが発生した場合、テキスト-イン情報を画面上に表示します(1x1分割画面にのみ対応)。
 - メッセージ: スクリーンメッセージを表示します。スクリーンメッセージに関する詳しい内容は、“5.10 ネットワーク”(p. 38)部分を参照してください。
- ポジション: 画面表示OSDの位置、OSDテキストの大きさ、OSDのスペースを変更することができます。
- 制御ツールバー: “不透明度”スライダーを利用して、カメラ画面の制御ツールバーの不透明度を調整します。



カメラ名



ステータスアイコン イベント警告



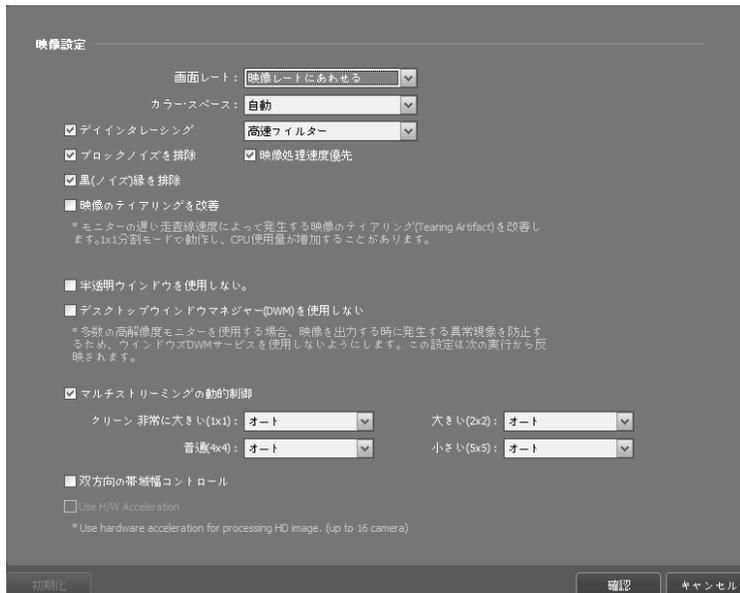
モーションブロック



制御ツールバー

日付/連続録画

5.7 映像設定



- 画面レート: 映像の出力レートを設定します。
 - 映像レートにあわせる: 映像のオリジナルレートで、カメラ画面のエリアに合わせて映像を出力します。
 - 画面に合わせる: 画面比率と関係なくカメラ画面のエリアにあわせて映像を出力します。
 - 画面に合わせる(比率維持): 画面比率を維持したままでカメラ画面のエリアにあわせて映像を出力します。但し、カメラ画面のサイズによって映像の上下左右が切れることがあります。映像拡大やホットスポット、イベントスポット、モーションブロック表示、機能の動作時、該当カメラ画面については本画面レートに対応せず、代わりに“映像比率に合わせる”が適用されます。
 - 実際サイズ(×1): 映像の実際のサイズに出力します。
- カラー・スペース: 画面で映像をディスプレイするためのカラー・スペースを選択します。カラー・スペースの設定に従って、映像の色感やディスプレイ性能に差が出ることがあります。
- デイインタレーシング: インタレーシングモードでエンコードされている映像の場合、モーションのある部分に発生する横線やノイズを排除し、映像出力の品質を向上させます。希望するデイインタレーシングフィルターを選択します。
- ブロックノイズを排除: 拡大映像で発生する階段(ブロック)現象を排除し、画面上に表示される映像の出力品質を向上させます。

- 映像処理速度優先: 映像出力時、画面上に表示される映像の出力品質より、ディスプレイ速度を優先して表示します。
- 黒(ノイズ)縁を排除: 映像の端に出力される黒い縁(ノイズ)を排除します。
- 映像のティアリングを改善: モニターの遅い走査線速度によって発生する映像のティアリングを改善します(1×1画面分割モードでのみ)。この場合、CPU使用量が増加することがあります。
- 双方向の帯域幅コントロール: 画面分割によってデバイスの解像度とフレーム速度を流動的に変更し、ネットワークの帯域幅をコントロールします(1×1分割: 該当デバイスでサポートする最大解像度および転送速度、多分割: 各画面の分割に適切なレベルに低くした解像度およびフレーム速度)。これにより、ネットワーク帯域幅を効率的に使うことによってネットワークの負荷によって起こるiRASシステムの性能低下を減らすことができます。本機能が動作するためにはデバイスにも該当機能が設定されていなければなりません。本機能は監視映像に対してのみ動作します。
- Use H/W Acceleration: iRASプログラムでハードウェアの加速を使用します。使用時にHDクラスの画質映像処理が向上します。本機能はユーザーのPCでハードウェアの加速を使用する場合にのみ対応します。

5.8 レポート



ログリスト

1ページに出力されるログの数: 100

動作状態

Use 動作状態

更新間隔: 30分

初期化 確認 キャンセル

- 1ページに出力されるログの数: 1ページに出力されるログの数を設定します(“デバイスログ”の場合、設定に関係なく100個)。
- 動作状態: デバイス検査パネルでの状態更新間隔を設定します。“Use動作状態”の選択を解除すると動作状態パネルが動作しなくなります。

5.9 リアルタイムのイベント



- **時間範囲:** リアルタイムのイベントのリストに表示される各イベント通知の表示期間を設定します(イベントのリストが100個以下である場合に表示期間が過ぎてもイベント通知がリアルタイムのイベントリストから消えない)。
- **コラム:** リアルタイムのイベントのリストに表示しようとする情報を選択します。
- **コールバックのポート:** デバイスからコールバックメッセージを受信するためのポート番号を設定します。
- **ライブテキストイン時間範囲:** テキストインイベント感知時、該当テキストインデータの表示期間を設定します。テキストインデータはテキストインイベント発生後、設定した時間範囲内でテキストインビューア画面で確認できます。テキストインビューア画面に関する詳しい内容は、“6.3 カメラの制御、テキストインビューア”(p. 57)部分を参照してください。
- **イベントのサウンド:** リアルタイムのイベントリストにイベント通知の時、オーディオを再生してサウンドを出力するように設定します。希望するイベントを選択した後、 ボタンをクリックして出力するオーディオファイル(.wav)を設定します。 ボタンをクリックすると該当オーディオファイルを再生して、サウンドを確認することができます。
- **イベントスポット:** リアルタイムのイベントリストにイベント通知の時そのイベントが発生したカメラ映像をイベントスポット画面に表示します。
 - **イベント監視期間:** イベントスポット画面に表れる映像の持続時間を設定します。
 - **最小監視期間:** 現在イベントが表示されている間に他のイベントが感知された場合、現在イベントに対するイベント監視期間を設定します。設定された時間が過ぎてから他に感知されたイベントのカメラ映像を表示します。

5.10 ネットワーク

- メガピクセル映像監視用バッファリング使用:** メガピクセル映像を監視する際にバッファリングを使用して画面に映像をより柔らかく出力することができます。ネットワーク環境により、バッファリングが遅延されたりリアルタイム感が落ちたりする場合があります。この機能はデュアルコアCPU以上のPCで動作し、各監視パネルで最大4個のカメラに対して支援します。
- 監視映像フレームなし検出期間:** 映像フレームの転送をしたか、どうかを確認する間隔を設定します。設定した時間の間、iRASシステムにデバイスの映像フレームが転送されない場合、該当カメラ画面にメッセージが表示されます。
- 連結解除メッセージ:** デバイス連結が解除された場合に表示されるスクリーンメッセージ又はデバイス接続時にカメラの状態が表示されるスクリーンメッセージの内容を変更できます。“設定”ボタンをクリックした後、各メッセージの横にあるチェックボックスを選択すると、該当メッセージの内容を変更することができます。
- FEN:** FEN(For Easy Network)機能を使用するデバイスがある場合、“ 使用”を選択した後、デバイスが登録されているFENサーバー情報を入力します。本設定が正しくない場合、FEN機能を使用するデバイスの登録及び接続はできません。ただし、FEN機能を使用する際、デバイス及びiRASシステムのネットワーク接続タイプ(例: UDP Hole Punching、Relay)によってVNC (Virtual Network Computing、仮想ネットワークコンピューティング)の遠隔接続には対応しない場合があります。
- RTP受信ポート範囲:** RTPプロトコルを使用して映像を転送するデバイスが登録された場合、RTP受信ポート範囲を設定します。ネットワークファイヤーウォールまたはイントラネットが特定UDP/RTPポート番号のみを許容するならば、該当ポート番号に合わせてRTPポート範囲設定を変更しなければなりません。一般ストリーミングプログラムのポート番号と衝突しないようにしてください。衝突が起こる場合、映像監視ができない場合があります。

- 損傷したフレームは出力しない: RTPプロトコル使用時、ネットワーク環境によってフレームが損傷したり消失することがあります。この場合、損傷したフレームを監視または再生パネルに表示するかどうかを設定します。
- バッファリングのフレーム数: RTPプロトコルで使用するバッファリングのフレーム数を設定します。数字が大きくなれば映像が切れる現象は減りますがリアルタイム感は落ちます。
- ネットワークキーボード使用: ネットワークキーボードを使用してiRASプログラムを制御することができます。この時iRASプログラムが使うポート番号を設定します。“マウスカーソル拡大”を選択すると、マウスカーソルのサイズが大きくなります。

5.11 マップ

- 自動フォーカシング使用: 指定したイベント発生するとマップでそのイベントが発生したデバイス領域を拡大して表示します。
 - フォーカシングイベント: 自動フォーカシングを行うイベントを指定します。
 - フォーカシング期間: 自動フォーカシングの持続時間を設定します。
 - フォーカシングの最小維持: 互いに違うデバイスでイベントが連続して感知される場合に先に感知されたイベントに対して自動フォーカシングの持続時間を設定します。設定された時間が経ってから後で感知されたイベントに自動フォーカシングが移動します。
- 拡大ファインダー: PIP画面を表示したり非表示にします。PIP画面の四角は拡大されたエリアを表示します。“自動”に設定するとキャンバスが拡大された場合のみPIP画面を表示します。

- マップイベントスポット: イベント発生時そのイベントが発生したカメラ映像をマップイベントスポット画面に表示します。
 - イベント監視期間: マップイベントスポット画面に表れる映像の持続時間を設定します。
 - 最小監視期間: 現在イベントが表示されている間に他のイベントが感知される場合、現在のイベントに対するイベント監視期間を設定します。設定された時間が経ってから後で感知されたイベントのカメラの映像を表示します。
- インスタントビューアー: インスタントビューアーの持続時間を設定します。インスタントビューアーはマップでカメラをクリックすると現れます。

5.12 バックアップ/復元

iRASプログラムの設定値を“.iexp”ファイルで保存したり、保存された設定値を読み込んで現在のiRASプログラムに適用することができます。

第 6 章 – リアルタイム映像監視

登録されたサイトのリアルタイム映像を監視することができます。iRASプログラムはデバイスでの設定に従って映像を受信し、監視画面に表示します。

6.1 映像監視

リアルタイム映像監視は監視パネル(最大4つ)でサポートされます。パネルタブに監視タブがない場合、“システム”メニューで“新しいタブ”を選択した後、“監視”をクリックしてタブを追加します。



パネルタブで監視タブをクリックします。→“サイト”リストで接続するサイトを選択した後、監視画面にマウスでドラッグ&ドロップします。選択したサイトのリアルタイム映像が画面に表示されます。現在監視しているカメラ画面を選択した後、マウスでドラッグ&ドロップすると、接続を解除せずに該当カメラ画面を監視画面の希望する位置に移動することができます。



- ✓ 1280×720以上の解像度の映像を2つ以上のカメラ画面で同時に監視または再生する場合、iRASシステムの性能が大きく低下することがあります。

パネルのツールバー

下段にあるパネルのツールバーを利用して監視パネルを制御することができます。



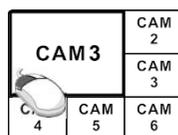
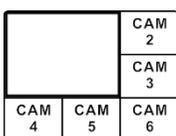
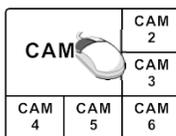
-  (ユーザーのレイアウト登録): 現在の画面の分割を保存します。

-  (画面分割): 画面分割を変更します。 ボタンをクリックしてより多様な画面分割を選択することができます。 または  ボタンをクリックすると前または次のカメラグループに移動します。
-  (レイアウトの順次監視): レイアウトの順次監視を開始または停止します。詳しい内容は、“レイアウトの順次監視” (p. 46)部分を参照してください。
-  (ホットスポット): 選択した画面をホットスポット画面に設定します。詳しい内容は、“ホットスポット設定” (p. 42)部分を参照してください。
-  (イベントスポット): 選択した画面をイベントスポット画面に設定します。詳しい内容は、“イベントスポット設定” (p. 43)部分を参照してください。
-  (マップイベントスポット): 選択した画面をマップイベントスポット画面に設定します。詳しい内容は、“マップイベントスポット設定” (p. 43)部分を参照してください。
-  (イメージの保存・プリント): 現在の画面に表示されたイメージを保存または印刷します。
-  (オーディオブロードキャスト): 現在の監視タブにある全てのデバイスにオーディオをブロードキャストします。
-  (緊急録画): 現在の監視タブにある全ての映像に対し緊急録画を行います。

ホットスポット設定

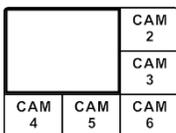
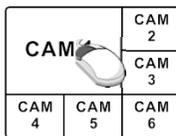
✓ iRASプログラムで“ホットスポット”とは現在の画面に表示されたカメラの映像の中で任意のカメラの映像を強調して監視するために指定したカメラ画面を言います。ホットスポット画面には赤色の枠が表示されます。

- 現在監視している画面でホットスポット画面に設定するカメラ画面を選択します。
- 監視パネルの下段にあるツールバーで  (ホットスポット)ボタンをクリックすると選択したカメラ画面に接続されていた既存の接続を解除します。ホットスポット画面には赤色の枠が表示されます。
- 画面で任意のカメラを選択すると、選択したカメラの映像がホットスポット画面に表示され、該当カメラを制御することができます。



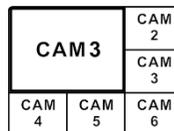
イベントスポット設定

- ✓ iRASシステムで“イベントスポット”とは、現在の画面に表示されたカメラ映像のうち、イベントが発生した映像を強調して監視するために指定したカメラ画面を言います。イベントスポット画面には青色の枠が表示されます。
1. 現在監視している画面でイベントスポット画面に設定するカメラ画面を選択します。
 2. 監視パネルの下段にあるツールバーで  (イベントスポット) ボタンをクリックすると、選択したカメラ画面に接続されていた既存の接続を解除します。イベントスポット画面には青色の枠が表示されます。
 3. 画面でイベントが発生すればイベントが発生したカメラの映像がイベントスポット画面に表示され、該当カメラを制御することができます。



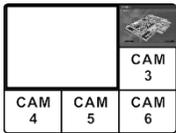
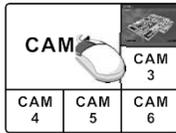
CAM3:

イベントの発生

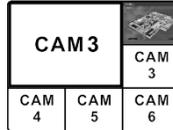


マップイベントスポット設定

- ✓ iRASシステムで“マップイベントスポット”とは、現在の画面に表示されたマップで、イベントが発生した映像を強調して監視するために指定したカメラ画面を言います。マップイベントスポット画面には灰色の枠が表示されます。
1. 現在監視している画面でマップイベントスポット画面に設定するカメラ画面を選択します。
 2. 監視パネルの下段にあるツールバーで  (マップイベントスポット) ボタンをクリックすると、選択したカメラ画面に接続されていた既存の接続を解除します。マップイベントスポット画面には灰色の枠が表示されます。
 3. 画面でイベントが発生すればイベントが発生したカメラの映像がマップイベントスポット画面に表示され、該当カメラを制御することができます。



[マップ]CAM3:
イベントの発生



レイアウトの監視

多数のカメラの映像をあらかじめ設定されたレイアウトで監視することができます。レイアウトの監視をするためには、レイアウトが登録されていなければなりません。レイアウトの登録に関する詳しい内容は、次の説明を参照してください。

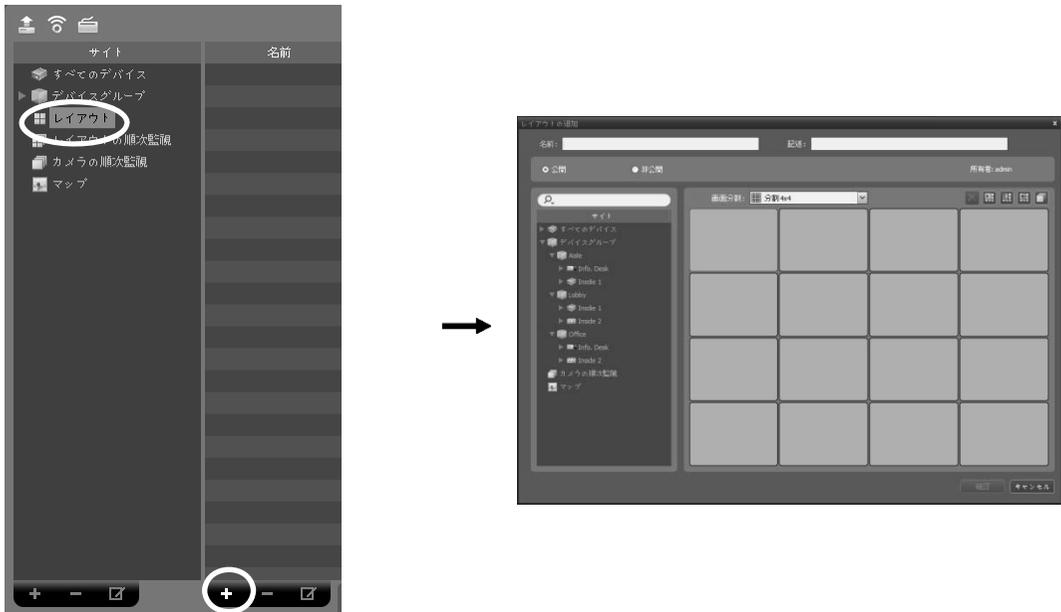
- ✓ 本ユーザーマニュアルで、“レイアウト”とは特定の分割画面に希望するカメラを配置して作った画面構成を言います。

レイアウトリストで希望するレイアウトを選択した後、監視画面にマウスでドラッグ&ドロップします。該当するレイアウトに追加されたカメラの映像があらかじめ設定された分割画面で表示されます。



レイアウトの登録

1. “システム”メニューで“iRAS Setup”を選択した後、“デバイス”メニューを選択します。
2. “サイト”パネルで“レイアウト”をクリックし、右側のサイトリストのパネルの下段にある **+** ボタンをクリックします。“レイアウトの追加”画面が表示されます。



- 名前: レイアウト名を入力します。
- サイト: 登録されたデバイス、カメラまたはカメラの順次監視及びマップリストを表示します。🔍 ボタンの横に検索語を入力して登録されたデバイスまたはカメラの順次監視を検索することができます。検索語を入力すると、その結果を表示します。
- 公開/非公開: そのレイアウトを全てのユーザーに表示するか(公開)、現在のユーザーだけに表示します(非公開)。“admin”ユーザーの場合、全てのレイアウトを見ることができます。
- 所有者: そのレイアウトを作った人のユーザーIDを表示します。
- 画面分割: 該当するレイアウトの画面分割を選択します。“サイト”リストでレイアウトに割り当てるデバイス、カメラまたはカメラの順次監視を選択した後、レイアウト画面の希望する位置にマウスでドラッグ&ドロップします。
- ✕ (削除): レイアウト画面で特定画面を選択した後ボタンをクリックすると、選択した画面に割り当てられたカメラをレイアウト画面から削除します。
- 🔥 (ホットスポット): レイアウト画面で特定画面を選択した後ボタンをクリックすると、選択した画面をホットスポット画面として設定します。
- 🗺️ (イベントスポット): レイアウト画面で特定画面を選択した後ボタンをクリックすると、選択した画面をイベントスポット画面として設定します。
- 🗺️ (マップイベントスポット): レイアウト画面で特定画面を選択した後ボタンをクリックすると、選択した画面をマップイベントスポット画面として設定します。
- 📹 (カメラの順次監視): レイアウト画面で特定画面を選択した後ボタンをクリックすると、カメラの順次監視を開始することができ、該当する順次監視を選択した画面に割り当てます。

“確認”ボタンをクリックしてレイアウトの追加を終了します。

レイアウトの順次監視

多数のカメラの映像をあらかじめ設定された2つ以上のレイアウトで順次監視することができます。レイアウトの順次監視を行うためには、レイアウトの順次監視が登録されていなければなりません。順次監視レイアウトの追加に関する詳しい内容は、次の説明を参照してください。

✓ 本ユーザーマニュアルで、“レイアウト”とは特定の分割画面に希望するカメラを配置して作った画面構成を言います。

- レイアウトの順次監視リストで希望するレイアウトの順次監視を選択した後、監視画面にマウスでドラッグ&ドロップします。該当するレイアウトの順次監視に登録したカメラ映像が順次各レイアウトの分割画面に表示されます。



- パネルの下段にあるツールバーの  (レイアウトの順次監視)ボタンをクリックして、レイアウトの順次監視を停止したり再開できます。



例

CAM 1	CAM 2
CAM 3	CAM 4

CAM 5		CAM 2
		CAM 3
CAM 4	CAM 5	CAM 6

レイアウト1

レイアウト2

CAM 1	CAM 2
CAM 3	CAM 4

CAM 5		CAM 2
		CAM 3
CAM 4	CAM 5	CAM 6

CAM 1	CAM 2
CAM 3	CAM 4

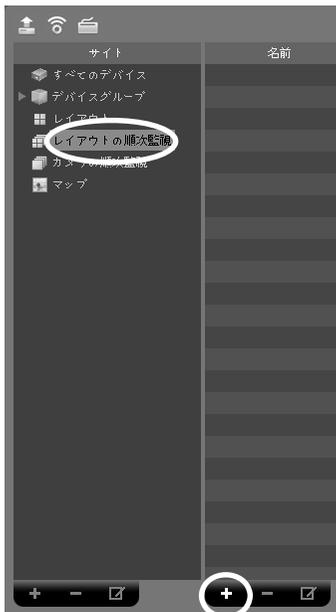
CAM 5		CAM 2
		CAM 3
CAM 4	CAM 5	CAM 6

■■■

レイアウトの順次監視

順次監視レイアウトの登録

1. “システム”メニューで“iRAS Setup”を選択した後、“デバイス”メニューを選択します。
2. “サイト”パネルで“レイアウトの順次監視”をクリックした後、右側のサイトリストのパネルの下段にある **+** ボタンをクリックします。“順次監視レイアウトの追加”画面が表示されます。
3. 順次監視するレイアウトが登録されていない場合、“レイアウトの追加”ボタンをクリックします。“レイアウトの追加”画面が表示されたら“レイアウトの監視” (p. 44)部分を参照して順次監視するレイアウトを登録します。順次監視をするためには2つ以上のレイアウトが登録されていなければなりません。



- 名前: レイアウトの順次監視の名前を入力します。
- 公開/非公開: そのレイアウト順次監視を全てのユーザーに表示するか(公開)、現在のユーザーだけに表示します(非公開)。“admin”ユーザーの場合、全てのレイアウト順次監視を見ることができます。
- 所有者: そのレイアウト順次監視を作った人のユーザーIDを表示します。
- レイアウトリスト: 登録されたレイアウトリストを表示します。 🔍 ボタンの横に検索語を入力して登録されたレイアウトを検索することができます。検索語を入力すると、その結果を表示します。
- 選択されたレイアウトの順次監視のリスト: レイアウトの順次監視のために登録されたレイアウトリストを表示します。“持続時間(秒)”は各レイアウトが画面に表示される時間を示します。“全て適用”ボタンをクリックすると、設定された持続時間をリストにあるすべてのレイアウトに等しく適用します。

“レイアウトリスト”でレイアウトを選択した後、▶ ボタンをクリックすると選択されたレイアウトが“選択されたレイアウトの順次監視リスト”に追加されます。“確認”ボタンをクリックすると順次監視レイアウトの追加を終了します。

カメラの順次監視

多数のカメラの映像を同一のカメラ画面で順次監視することができます。カメラの順次監視のためには、カメラの順次監視が登録されていなければなりません。カメラの順次監視の登録に関する詳しい内容は、次の説明を参照してください。

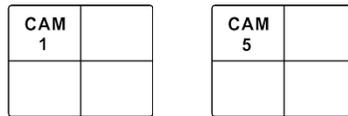
1. カメラの順次監視リストで、希望するカメラの順次監視を選択した後、監視画面にマウスでドラッグ&ドロップします。該当カメラの順次監視に登録したカメラ映像が画面に順次表示されます。



2. カメラ画面の下段にあるコントロールツールバーの 📄 (カメラの順次監視) ボタンをクリックして、カメラの順次監視を中止したり再開することができます。

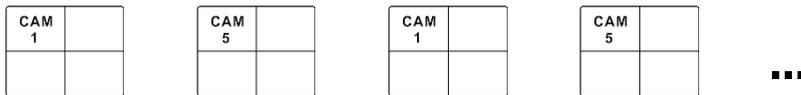


カメラの順次監視の登録



カメラ1

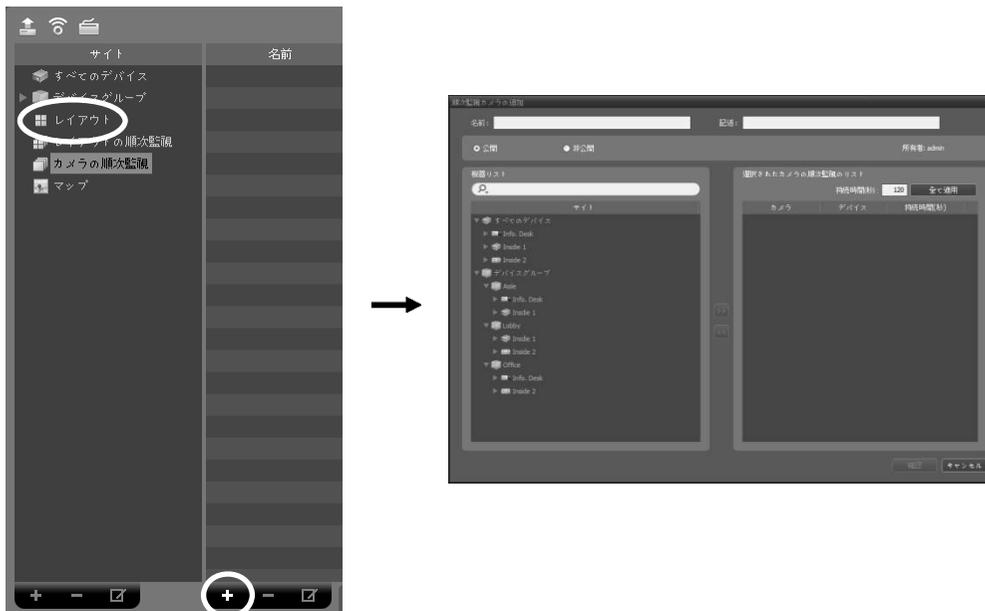
カメラ5



カメラの順次監視

カメラの順次監視の登録

1. “システム”メニューで“iRAS Setup”を選択した後“デバイス”メニューを選択します。
2. “サイト”パネルで“カメラの順次監視”をクリックした後、右側のサイトリストのパネルの下端にある **+** ボタンをクリックします。“順次監視カメラの追加”画面が表示されます。



- 名前: カメラの順次監視の名前を入力します。
- 公開/非公開: そのカメラ順次監視を全てのユーザーに表示するか(公開)、現在のユーザーだけに表示します(非公開)。“admin”ユーザーの場合、全てのカメラ順次監視を見ることができます。
- 所有者: そのカメラ順次監視を作った人のユーザーIDを表示します。
- 機器リスト: 登録されたデバイスリストを表示します。🔍 ボタンの横に検索語を入力して、登録されたデバイスを検索することができます。検索語を入力すると、その結果を表示します。
- 選択されたカメラの順次監視のリスト: カメラの順次監視のために登録されたカメラリストを表示します。“持続時間(秒)”は各カメラの映像が画面に表示される時間を表示します。“全て適用”ボタンをクリックすると、設定された持続時間をリストにあるすべてのカメラに等しく適用します。

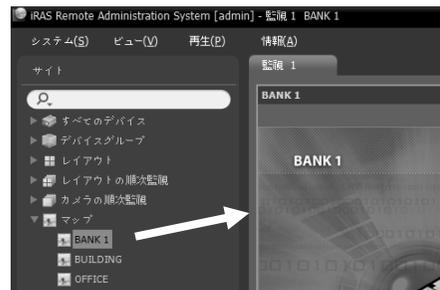
“デバイスリスト”でカメラを選択した後、➡ ボタンをクリックすると選択されたカメラが“選択されたカメラの順次監視のリスト”に追加されます。“確認”ボタンをクリックすると順次監視カメラの追加を終了します。

6.2 マップ監視

登録されたデバイスのカメラ映像、イベント感知、接続された入/出力デバイスの状態をマップで監視することができます。マップの順次監視のためには、管理サービスにマップが登録されていなければなりません。マップの登録に関する詳しい内容は、“第 11 章 — マップエディター” (p. 87)部分を参照してください。

マップ監視は監視パネル(最大4つ)及びマップパネルでサポートされます。パネルタブに監視またはマップタブがない場合、“システム”メニューで“新しいタブ”を選択した後、“監視”または“マップ”をクリックしてタブを追加します。

マップリストで、希望するマップを選択した後、監視画面にマウスでドラッグ&ドロップします。該当マップが画面に表示されます。現在監視しているマップを選択した後、マウスでドラッグ&ドロップすると、接続を解除せずに該当マップを監視画面の希望する位置に移動することができます。マップで入/出力デバイスを選択し、監視画面、再生パネルまたはデバイス状態パネルにマウスのドラッグ&ドロップするとそのデバイスの映像を監視または再生したりデバイス状態を監視したりすることができます。





マウスカーソルをマップの入/出力のデバイス上に位置させるとその入/出力デバイスのイベント感知および状態を表示します。その入/出力デバイスでイベントが感知されたりデバイスが正しく動作しなかったりすると次のようなアイコンが出て、順番に最高4つまで表示されます(デバイスの仕様及びバージョンによって一部イベントのアイコンがサポートされないことがあります)。

- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| ⊘ アクセス失敗 | 🔌 イベント・オフ | ❗ 異常作動 | 🌀 モーション感知 |
| 🚫 映像遮断 | 📺 ビデオロス | 📄 テロ感知 | 🔍 映像分析感知 |
| 🚧 トリップゾーン | 👉 タンパーリング | 🔊 オーディオ感知 | 🔔 アラーム入力 |
| 🔊 アラーム出力 | | | |

イベント感知の場合その入/出力デバイスが接続されたデバイスでのイベント感知設定によって表示されます。また“異常作動”の場合その入/出力が接続されたデバイスで設定したシステム検査設定によって表示されます。

マップ登録時、状態のカラーを設定した場合、イベント感知および状態が固有の色で表示されます。同時に2つ以上のイベントまたは状態が感知された場合、各イベントまたは状態のカラーが順次に表示されます。

経路順次監視

マップを監視する時、マップに登録された多数のカメラの映像を同一のカメラ画面で順次監視することができます。経路順次監視のためには、順次監視経路が設定されてある必要があります。順次監視経路設定に関する詳しい内容は、“11.2 マップ設定、経路順次監視” (p. 91)部分を参照してください。

マップで、順次監視経路を選択した後、監視画面にマウスでドラッグ&ドロップします。経路順次監視に連動されたカメラの映像が設定された持続時間画面に順次表示されます。



6.3 カメラの制御

制御ツールバー及び画面のメニューを利用してカメラを制御することができます。

制御ツールバー

カメラ画面を選択した後、マウスのカーソルを該当するカメラ画面に動かすと、制御ツールバーが表示されます。制御ツールバーを用いて選択したカメラを制御することができます。マウスのカーソルを各ボタンの上に動かすと該当するボタンのツールチップが表示されます。



-  (PTZ制御): カメラがPTZ制御機能をサポートしている場合、PTZを制御します。詳しい内容は、“PTZ制御” (p. 54)部分を参照してください。
-  (色調整): 現在の映像の明暗、コントラスト、彩度、色彩を調整します。 ボタンをクリックすると変更内容を全てキャンセルして元のイメージに戻ります。本設定はiRASプログラムの映像だけでなく、デバイスの映像にも適用されます。
-  (イメージ効果): イメージに効果の処理ができます。詳しい内容は、“イメージ効果” (p. 56)部分を参照してください。
-  (映像拡大): 映像を拡大します。詳しい内容は、“映像拡大” (p. 56)部分を参照してください。
-  (カメラの順次監視): カメラの順次監視を開始または停止します。詳しい内容は、“カメラの順次監視” (p. 48)部分を参照してください。
-  (リスニング/トーク): デバイスのオーディオを受信するかデバイスにオーディオを送信します。
-  (テキストインビューア): テキストインビューア画面を表示します(テキストインイベントが感知された場合のみ)。テキストインイベント感知の際、該当するカメラのタイトルバーを青色で表示します。詳しい内容は、“テキストインビューア” (p. 57)部分を参照してください。

- (緊急録画): 緊急録画を開始または停止します。緊急録画中にはカメラ画面の右側上段に緊急録画OSDが表示します。
 - ✓ “緊急録画とは、現在監視中の映像を手動で録画できるようにする機能です。”
- 📍 (Googleマップ): 本機能は、車載専用のDVR/NVRのみ対応します。詳しい内容は、“Googleマップ” (p. 57)部分を参照してください。
- 📊 (速度グレース): 本機能は、車載専用のDVR/NVRのみ対応します。詳しい内容は、“速度グレース” (p. 58)部分を参照してください。
- 🚗 (自動車情報): 本機能は、車載専用のDVR/NVRのみ対応します。詳しい内容は、“自動車情報” (p. 58)部分を参照してください。

監視画面のメニュー

カメラ画面を選択した後、マウスの右ボタンをクリックすると、画面のメニューが表示されます。画面のメニューを用いて選択したカメラを制御することができます。

PTZ制御	
色調整	
映像拡大	
映像処理	▶
アラーム・アウト	▶
テキストインビューア	
リスニング	
トーク	
オーディオブロードキャスト...	
緊急録画	
マルチストリーム	▶
ホットスポット	
イベントスポット	
マップイベントスポット	
モーション感知エリア出力	
画面レート	▶
静止画保存...	
排除	▶

- PTZ制御、色調整、映像拡大、リスニング、トーク、緊急録画: 制御ツールバーの該当ボタンをクリックすると同じように動作します。詳しい内容は、“制御ツールバー” (p. 52)部分を参照してください。
- 映像補正: イメージに効果の処理ができます。詳しい内容は、“イメージ効果” (p. 56)部分を参照してください。
- アラーム・アウト: アラーム出力を作動と解除します。
- テキストインビューア: テキストインビューア画面を表示します(テキストインイベントが感知された場合にのみ)。テキストインイベント感知の際、該当するカメラのタイトルバーを青色で表示します。詳しい内容は、“テキストインビューア” (p. 57)部分を参照してください。
- オーディオブロードキャスト: 現在の監視タブにある全てのデバイスにオーディオをブロードキャストします。
- マルチストリーム: 該当するデバイスでリアルタイム監視映像に対してマルチストリームモードが設定されている場合、希望するストリームを選択することができます。
- ホットスポット: 選択したカメラ画面をホットスポット画面に設定します。詳しい内容は、“6.1 映像監視、ホットスポット設定” (p. 42)部分を参照してください。
- イベントスポット: 選択したカメラ画面をイベントスポット画面に設定します。詳しい内容は、“6.1 映像監視、イベントスポット設定” (p. 43)部分を参照してください。

- マップイベントスポット: 選択したカメラ画面をマップイベントスポット画面に設定します。詳しい内容は、“6.1 映像監視、マップイベントスポット設定” (p. 43)部分を参照してください。
- モーション感知エリア出力: 選択したカメラでモーション感知イベントが発生する場合、モーションが感知されるエリアを画面上に赤色のブロックで表示します(ネットワークビデオエンコーダーの場合にのみ対応)。
- 画面レート: 映像の出力レートを設定します。
 - 画面に合わせる: 画面比率と関係なくカメラ画面のエリアにあわせて映像を出力します。
 - 画面に合わせる(比率維持): 画面比率を維持したままでカメラ画面のエリアにあわせて映像を出力します。但し、カメラ画面のサイズによって映像の上下左右が切れることがあります。映像拡大やホットスポット、イベントスポット、モーションブロック表示、機能の動作時、該当カメラ画面については本画面レートに対応せず、代わりに“映像比率に合わせる”が適用されます。
 - 映像レートにあわせる: 映像のオリジナルレートにカメラ画面のエリアをあわせて映像を出力します。
 - 半分サイズ($\times 0.5$)~4倍サイズ($\times 4$): 映像のオリジナルサイズを基準にして該当メニューで指定したサイズにカメラ画面に映像を出力します。例えば、“実際のサイズ($\times 1$)”を選ぶと、オリジナル映像の実際のサイズで出力します。カメラ画面が該当サイズで映像を出力できるほどエリアが確保された場合にのみメニューが活性化されます。
- 静止画保存: 画面に出力された現在の映像を実際のサイズのイメージファイルで保存します。
- 削除: 現在の接続を解除します。

PTZ制御

制御ツールバーで  (PTZ制御) ボタンをクリックすると、PTZ制御ツールバーが表示され、各ボタンを用いてPTZを制御することができます。PTZカメラのモデルによっては一部の機能は動作しないことがあります。



-  (PTZ制御):  (PTZ制御パネル) を表示したり非表示にします。PTZ制御パネルの矢印ボタンをクリックするか、カメラ画面上でマウスをドラッグしてPTZカメラの方向を調整します。
-   (映像拡大/縮小): 現在の映像を拡大または縮小します。
-   (焦点を遠/近): 遠くまたは近くにある映像にカメラの焦点をあ合わせます。
-   (しぼりを開く/閉じる): カメラレンズのしぼりを開いたり閉じます。
-   (プリセット設定/表示): 該当機能に対する内容は“PTZプリセット制御” (p. 55)部分参照

照してください。

-  (自動焦点): 映像が拡大または縮小されカメラの焦点がぼけた場合、ボタンをクリックすると焦点を自動的に調整します(ネットワークカメラの一部モデル接続時に限る)。
-  (詳細メニュー): 詳細メニュー画面が表示され、該当カメラがサポートする拡張機能を制御することができます。各拡張機能に関する詳しい内容は、該当PTZカメラのユーザーマニュアルを参照してください。
-  (閉じる): PTZモードを終了して制御ツールバーに移動します。

PTZプリセット制御

カメラの位置を“プリセット”で保存し、カメラを保存された位置にすぐ移動することができます。

1. カメラ画面でPTZカメラの方向を希望する位置に移動させます。
2. PTZ制御ツールバーで  (プリセット設定)ボタンをクリックすると、“プリセット設定”画面が表示されます。プリセットタイトルを入力した後“確認”ボタンをクリックすると現在位置が、入力されたプリセットタイトルで保存されます。
3. PTZ制御ツールバーで  (プリセット表示)ボタンをクリックすると“プリセット表示”画面が表示されます。希望するプリセットを選択すると、PTZカメラの方向が該当プリセットの位置に移動します。



映像拡大

制御ツールバーで  (映像拡大) ボタンをクリックすると、現在の映像を拡大することができます。

✓ “PIPとは“Picture in Picture”の略語で、画面内に表示される小さい画面を言います。



-  (スライダー): 拡大倍率を調整します。マウスホイールを用いて拡大倍率を調整することもできます。
-  (実際のサイズを表示): 実際サイズ拡大モードに入ります。実際サイズ拡大モードでは、カメラ画面のサイズまたは映像の拡大レートとは関係なく映像の実際のサイズを基準にして映像が拡大されます。
-  (拡大ファインダー): PIP画面を表示したり非表示にします。PIP画面の四角は拡大されたエリアを表示します。

イメージ効果

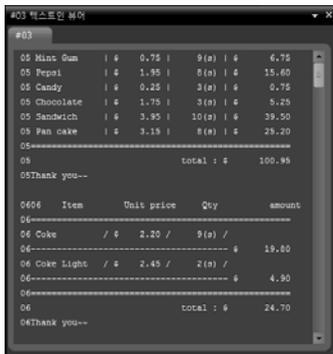
制御ツールバーで  (イメージ効果) ボタンをクリックすると、イメージ効果の制御ツールバーが表示され、各ボタンを用いてイメージに効果を与えることができます。本設定はiRASプログラムの映像にのみ適用され、デバイスの映像には適用されません。



-  (ソフト): 映像をソフトにします。
-  (鮮明): 映像を鮮明にします。
-  (高域増強): 明度及び鮮明度を増加させて映像をはっきりさせます。
-  (ヒストグラムの平準化): 明度を均等に調整して映像を自然にします。
-  (境界線の検出): 映像の輪郭を抽出します。
-  (復元): 変更事項を全てキャンセルして、元のイメージに復元します。

テキストインビューア

制御ツールバーで **T** (テキストインビューア) ボタンをクリックすると、テキストインビューア画面が表示され、テキストインデータをリアルタイムで確認できます(テキストインイベントが感知された場合のみ)。テキストインイベント感知の際、該当するカメラのタイトルバーを青色で表示します。



テキストインビューア画面のタイトルバーをクリックすると、テキストインのポップアップメニューが表示されます。

- タブを集める: それぞれのテキストインビューア画面を一つのパネルに集めます。
- 名前を付けて保存: テキストインデータをテキストファイル(.txt)で保存します。
- 時間範囲: テキストインイベント感知の際、該当テキストインデータの表示期間を設定します。テキストインデータはテキストインイベント発生後、設定した時間範囲内でテキストインビューア画面を通じて確認できます。

Googleマップ

- ✓ 本機能は、車載専用のDVR/NVRのみ対応します。

制御ツールバーで **G** (Googleマップ) ボタンをクリックすると、Googleマップパネルを表示します。



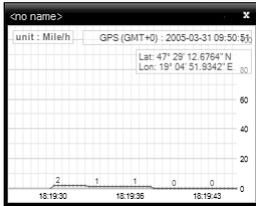
映像がGPS情報を持っている場合、Googleマップ上で、該当映像の自動車の位置(📍)及び進行方向(🏠)を表示します。“マップ”を表示、“衛星”を表示(“地形”表示する/しない)はGoogleマップから、支援する機能です。

- ✓ 車の位置及び進行方向を確認する際、該当時点の自動車が速度グループパネルに連動して表示されます。

速度グレース

- ✓ 本機能は、車載専用のDVR/NVRのみ対応します。

制御ツールバーで  (速度グレース) ボタンをクリックすると、速度グレースパネルを表示します。



映像がGPS情報を持っている場合、速度グレース上で、該当映像の自動車速度を表示します。車の速度がグレースの中央に表示されます。また、中央の赤い縦線は現在の位置を表します。

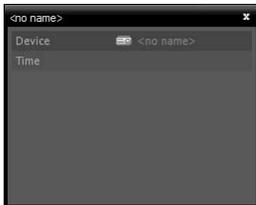
速度グレースパネルから、マウスの右ボタンをクリックする場合、グレースの形式、単位、GPS情報出力、高品質出力などが設定できます。

- ✓ 自動車速度を確認する際、該当時点の自動車位置及び進行方向がGoogleマップパネルに連動して表示されます。

自動車情報

- ✓ 本機能は、車載専用のDVR/NVRのみ対応します。

制御ツールバーで  (自動車情報) ボタンをクリックすると、自動車情報パネルを表示します。



映像が車の情報を持っている場合、該当映像の自動車情報を表示します。

6.4 マップの制御

制御ツールバー及び画面のメニューを利用してマップを制御することができます。

マップ制御ツールバー

マップを選択した後、マウスのカーソルを該当するマップに動かすと、制御ツールバーが表示されます。制御ツールバーを用いて選択したマップを制御することができます。マウスのカーソルを各ボタンの上に動かすと該当するボタンのツールチップが表示されます。



- (以前のマップ、次のマップ): 現在マップにリンクされているマップに移動したかマップリストでマップを選択して現在のマップの画面にドラック&ドロップして他のマップへの接続が行われた場合、以前または次に接続されたマップに移動します。
- (自動フォーカシング): 指定したイベント発生するとマップでそのイベントが発生したデバイス領域を拡大して表示します。異なるデバイスでイベントが同時に発生する場合、そのデバイスがすべて見える範囲内でキャンバスを拡大します。異なるデバイスでイベントが連続して感知される場合、設定された時間が経ってから後で感知されたイベントに自動フォーカシングが移動します。自動フォーカシングの設定に関する内容は“5.11 マップ” (p. 39)部分を参照してください。
- (フォーカシングイベント: 自動フォーカシングを行うイベントを指定します。
- (実際のサイズ): キャンバスの実際の大きさでマップを見せます。
- (拡大ファインダー): PIP画面を表示したり非表示にします。PIP画面の四角は拡大されたエリアを表示します。“自動”に設定するとキャンバスが拡大された場合のみPIP画面を表示します。
- (拡大スライダー): キャンバスの拡大倍率をを設定します。

例

- 拡大ファインダー: “オフ”に設定された場合

マップ監視



イベントの発生



自動フォーカシング



- 拡大ファインダー: “自動”または“オン”に設定された場合

マップ監視



イベントの発生



自動フォーカシング



マップ画面のメニュー

マップ画面を選択した後、マウスの右ボタンをクリックすると、画面のメニューが表示されます。画面のメニューを用いて選択したマップを制御することができます。



- 以前へ、次へ、自動フォーカシング、1倍サイズ (x1)、拡大ファインダー、ズームイン: 制御ツールバーの該当ボタンをクリックすると同じように動作します。詳しい内容は、“マップ制御ツールバー” (p. 59)部分を参照してください。
- マップリスト: 以前または以後に接続されたマップのリストを表示します。リストでマップを選択するとそのマップに移動します。
- リロード: 現在のマップの接続を更新します。
- フォーカシングイベント、フォーカシング期間: 自動フォーカシングのフォーカシングイベントおよびフォーカシング期間を設定します。“5.11 マップ” (p. 39)部分を参照してください。
- 削除: 現在の接続を解除します。

ライブポップアップ

マップ監視時イベントが感知されたカメラのリアルタイム映像が監視できます。イベント感知時に“マップエディター”での設定(イベント動作中の“ライブポップアップ”)によってポップアップ画面が表示されます。ライブポップアップリストにはiRASプログラムで表示されたライブポップ画面のリストが表示されます。

ポップアップ画面



画面を選択した後、マウスのカーソルを該当画面にあてるとコントロールツールバーが表示されます。コントロールツールバーを利用して該当カメラをコントロールすることができます。マウスのカーソルを各ボタンの上にあてると該当ボタンのツールチップが表示されます。コントロールツールバーボタンに関する詳しい内容は、“6.3 カメラの制御、制御ツールバー” (p. 52)部分を参照してください。

ポップアップ画面でマウスを右クリックすると、ポップアップ画面のメニューが表示されます。メニューを利用してポップアップ画面設定を変更することや該当カメラをコントロールすることができます。カメラコントロールメニューの場合、監視画面メニューの機能と同一です。詳しい内容は、“6.3 カメラの制御、監視画面のメニュー” (p. 53)部分を参照してください。

ライブポップアップリスト



右上にある矢印ボタンをクリックすると、ライブポップアップメニューが表示されます。メニューを利用してポップアップ画面の設定を変更することができます。

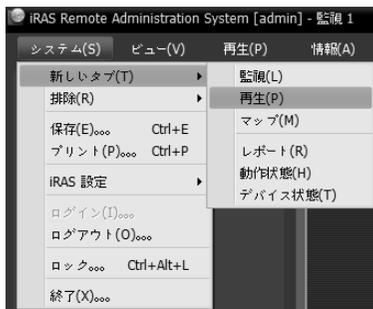
- レイアウト: ポップアップ画面の画面分割を選択します。
- モニター: デュアルモニターを使用する場合、ポップアップ画面を出力するモニターを選択します。
- ライブポップアップ無視: 時間を選択すれば、“マップエディター”での設定(イベント動作中の“ライブポップアップ”の持続時間)と関係なく、選択した時間中にはライブポップアップが動作しません。
- タイムアウト解除: 設定されたポップアップ画面の持続時間に関係なく、ポップアップ画面を手動で閉じるときに選択します。
- すべて削除: すべてのリストを削除します。

第 7 章 – 録画映像再生及び動画で保存

録画映像を検索して再生したりUSB保存デバイスに動画ファイルで保存することができます。

7.1 録画映像再生

1. デバイス及びiRASシステムに録画された映像再生及び動画で保存は再生パネル(最大4つ)でサポートします。パネルタブに再生タブがない場合、“システム”メニューで“新しいタブ”を選択した後、“再生”をクリックしてタブを追加します。



2. パネルタブで再生タブをクリックします。→“サイト”リストで接続するサイトを選択した後、再生画面にマウスでドラッグ&ドロップします。各カメラの録画映像が画面に表示されます。現在再生しているカメラ画面を選択した後、マウスでドラッグ&ドロップすると、再生を停止せず該当カメラ画面を再生画面の希望する位置に移動することができます。

レイアウトが登録されている場合、レイアウトリストで希望するレイアウトを選択した後、再生画面にドラッグ&ドロップして該当するレイアウトに映像を再生することができます。レイアウトの登録に関する詳しい内容は、“6.1 映像監視、レイアウトの監視、レイアウトの登録” (p. 44)部分を参照してください。



- ✓ 1280×720以上の解像度の映像を2つ以上のカメラ画面で同時に監視または再生する場合、iRASシステムの性能が大きく低下することがあります。
 - ✓ 本ユーザーマニュアルで、“レイアウト”とは特定の分割画面に希望するカメラを配置して作った画面構成を言います。
3. パネルのツールバー、タイムテーブル、制御ツールバー及び画面のメニューを用いて録画映像を再生します。

パネルのツールバー

パネルの下段にあるツールバーを用いて録画映像を検索して該当する映像を再生することができます。

- ✓ 連結されたデバイスのモデル及びバージョンによってツールバーが異なることがあり、一部の機能がサポートされない場合もあります。



- / (イベント検索/タイムラプス検索): イベント検索とタイムラプス検索の検索モードを変更します。詳しい内容は、“タイムテーブル/イベントリスト”(p. 64)部分を参照してください。
- (検索条件): イベント検索のための検索条件を設定します。検索条件に関する詳しい内容は、DVRの使用マニュアルを参照してください。
- (カレンダー): 特定日の映像を検索します。日付を選択すると、タイムテーブルに該当日の録画データが表示されます。カレンダーに録画映像がある日は活性化されて表示されます。
- (時間移動): 特定時点の映像を検索します。
 - 時間移動: 時間設定画面が表示されると、録画映像の時間を入力し、該当する時間の映像に移動します。
 - 最初に移動: タイムテーブルに表示された録画データの中で最初に録画された映像に移動します。
 - 最後に移動: タイムテーブルに表示された録画データの中で最後に録画された映像に移動します。
- (その他メニュー): メニューが表示されます。
 - データソース: 検索する録画画像の位置を選択します。
 - ローカル検索: DVRのメイン保存装置の録画画像を検索します。
 - アーカイブ検索: DVRのアーカイブ保存装置の録画画像を検索します。
 - 外付け検索: DVRにつながっている他のシステムで録画された保存デバイスの録画映像を検索します。仕様及び、バージョンにより、使用できない場合があります。
 - セグメント選択: DVRの時間が過去に変更され、時間重複現象により、同一時間帯に一つ以上の映像が存在する場合、望みの区間を選択します(時間単位のタイムテーブルを提供するDVRの場合にのみ対応)。
 - 静止画保存: 画面に出力された現在の映像を実際のサイズのイメージファイルで保存します。

- イメージを保存/イメージ出力: 現在の画面に表示されたイメージを保存または印刷します。
- パノラマスクリーン保存: 現在の画面に表示されたイメージを保存します。
-  (動画の保存): 録画映像を専用ビューアーファイル(.exe)またはAVIファイル(.avi)で保存します。詳しい内容は、“7.2録画映像を動画で保存” (p. 72)部分を参照してください。
-  (再生中のイベント): 録画映像の再生時にイベント録画映像があると、該当イベントのリストを表示します。イベントリストでイベントをダブルクリックすると、該当イベントの録画映像が表示されます。
-  (モーションの停止映像): イベントベース録画(イベント及びプリイベント)中に録画された映像の停止映像を再生パネルに表示します。詳しい内容は、“モーションイベントの停止映像” (p. 68)部分を参照してください。
-  (ステップ再生): フレームまたは時間単位で前または次の映像に移動します。  および  ボタンの間にある矢印をクリックして映像の移動間隔を設定することができます。
-  (高速逆再生/高速再生): 録画映像を高速で逆再生または再生します。
-  (停止/再生): 現在の画面に表示された録画映像再生を中止または開始します。
-  (ジョグシャトル): 再生方法および速度を調整することができます。ジョグシャトルの縦線は現在の再生方向及び速度を示します。縦線が中央から左にあると、映像を逆再生し、右側にあると正再生します。中央から遠いほど再生速度が速くなります。縦線をクリックしてジョグシャトルの希望する位置にマウスでドラッグした後、マウスのボタンをそのまま押し続けていると、該当する速度で映像を再生します。マウスボタンから手を離すと、縦線が中央に戻り、  (再生)ボタンをクリックすると一倍速で映像を再生します。  (ロック)ボタンをクリックした後、縦線をドラッグ&ドロップすると、移動した位置に縦線を固定させます。
-  x1.0 (ジョグシャトル): 再生速度を調整することができます。ジョグシャトルの縦線は現在の再生速度を示します。
-  (ユーザーのレイアウト登録): 現在の画面の分割を保存します。
-  (画面分割): 画面分割を変更します。  ボタンをクリックしてより多様な画面分割を選択することができます。  または  ボタンをクリックすると前または次のカメラグループに移動します。

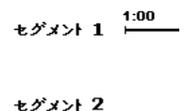
タイムテーブル/イベントリスト

- タイムラプス検索モード: タイムラプス検索モードの場合、画面の下段にあるタイムテーブルはカメラ別の録画情報を表示します。タイムテーブルの右上段にある  ボタンをクリックすると、画面にあるすべてのカメラの録画情報を表示し、  ボタンをクリックすると再生画面から選択したカメラの録画情報のみを表示します。



- ✓ 接続されたデバイスのモデルによって、タイムテーブルが異なることがあります。
- ① 現在の再生日 / 時間: タイムテーブルで映像の現在の再生時点を表示します。
- ② 録画期間: 録画映像の日付及び時間区間を表示します。任意の位置をクリックした後、左側または右側にドラッグすると、以前または以後の日付及び時間に移動します。キーボードのCtrlキーを押したまま、マウスホイールを動かすと時間区間を拡大して表示することができます。
- ③ カメラ名: カメラの名前を表示します。
- ④ 録画データ: 録画情報を分単位または時間単位で表示します(デバイスによって異なる)。
 - 分単位タイムテーブル(一部のDVRモデルを除いた全てのデバイス)
 - 赤色の縦線: タイムテーブルで映像の現在の再生時点を表示します。マウスで望みの時間をクリックすると、該当時間帯の最初の録画映像が表示されます。
 - 黄色の区分線: 時間重複現象が発生した場合、セグメントを区分します。その場合、タイムテーブルで右側に表示されるほど最新のデータです。“再生”パネルの  (カレンダー) ボタンをクリックすると、望みのセグメントにすぐ移動できます( (カレンダー) → 日付選択 → 望みのセグメント選択: 該当セグメントの最初の録画映像が画面に出力)。
 - バーの色: 録画モードを表示します(タイムラプス録画 - 青色、イベント録画 - 紫色、プライベート録画 - 黄色、緊急録画 - 赤色、デバイス接続の一時中断による非正常録画 - 緑色)。
 - 時間単位タイムテーブル(一部のDVRモデル)
 - 黄色のバー: タイムテーブルで映像の現在の再生時点を表示します。
 - ピンク色のバー / 灰色のバー: 時間重複現象が発生した場合、現在の画面に出力された映像のセグメントはピンク色のバーで、現在の画面に出力されていない映像のセグメントは灰色のバーで表示されます。灰色のバーで表示されたセグメントの映像は再生できません。“再生”パネルの  (その他メニュー) ボタンをクリックして画面に出力するセグメントを変更できます( (その他メニュー) → “セグメント選択”メニュー → 望みのセグメント選択: 選択セグメントの最初の録画映像が画面に出力)。
- ✓ iRASシステムまたはデバイスの時間が過去に変更されて録画された場合、同一の時間帯に一つ以上の録画映像が存在する可能性があります(時間重複現象)。この場合、重なった時間の録画映像はセグメントを区分して再生する必要があります。

例えば、1時より5時までの録画映像が存在する場合、使用者がシステム時間を5時より3時に変更してから6時まで録画を行うと3時より5時までの録画映像が二つ存在することになります。この場合に3時より5時までの時間帯には二つのセグメントは発生します。



- イベント検索モード: イベント検索モードの場合、画面下段にイベントリストが表示されます。SD (SDHC)メモリーカード検索時にはSD (SDHC)メモリーカードの録画機能が設定されている間に発生したイベントのみが検索されます。

イベント	デバイス	日付/時刻
🚩 モーション検知	CAM1	2010-04-27 14:44:51
🚩 モーション検知	CAM1	2010-04-27 14:44:27
🚩 モーション検知	CAM1	2010-04-27 14:43:35
🚩 モーション検知	CAM1	2010-04-27 14:42:22
🚩 モーション検知	CAM1	2010-04-27 14:40:35

イベント録画映像がある場合、リストでイベントをクリックすると、画面に該当イベントの録画映像が表示されます。イベントリスト右上の **Q+** ボタンをクリックすると次の結果が表示されます。

制御ツールバー

カメラ画面を選択した後、マウスのカーソルを該当カメラ画面に動かすと、制御ツールバーが表示されます。マウスのカーソルを各ボタンの上に動かすと、該当するボタンのツールチップが表示されます。



- 🚩 (オブジェクト/モーション 検索): デバイスの録画映像またはiRASシステムの緊急録画映像で、オブジェクトまたはモーションの変化が検索できます。詳しい内容は、“オブジェクト/モーション検索” (p. 68) 部分を参照してください。
- 🔍 (映像拡大): 現在の映像を拡大します。詳しい内容は、“映像拡大” (p. 69) 部分を参照してください。
- 🎚 (色調整): 現在の映像の明暗、コントラスト、彩度、色彩を調整します。🔄 ボタンをクリックすると、変更内容をすべてキャンセルして元のイメージに戻ります。この設定は録画映像には適用されません。
- 🎨 (イメージ効果): イメージに効果を与えます。詳しい内容は、“イメージ効果” (p. 70) 部分を参照してください。
- 🎧 (オーディオ再生): オーディオが録音された場合、映像再生時に録音されたオーディオと一緒に再生されます(1×1分割画面でのみ支援)。
- 📍 (Googleマップ): 本機能は、車載専用のDVR/NVRのみ対応します。詳しい内容は、“Googleマップ” (p. 70) 部分を参照してください。
- 📊 (速度グレース): 本機能は、車載専用のDVR/NVRのみ対応します。詳しい内容は、“速度グレース” (p. 71) 部分を参照してください。
- 🚗 (自動車情報): 本機能は、車載専用のDVR/NVRのみ対応します。詳しい内容は、“自動車情報” (p. 71) 部分を参照してください。

再生画面のメニュー

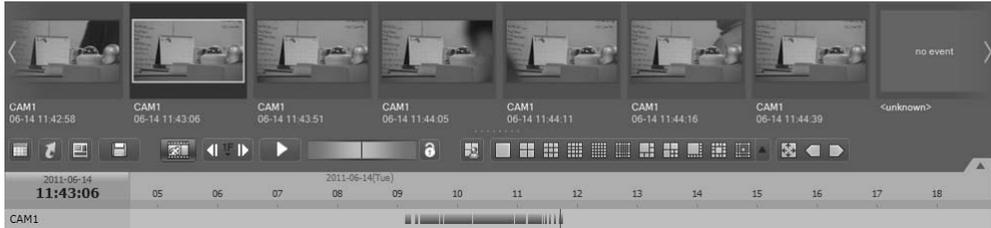
カメラ画面を選択した後、マウスの右ボタンをクリックすると、画面のメニューが表示されます。



- 映像拡大: 制御ツールバーの該当ボタンをクリックするのと同じように動作します。“制御ツールバー” (p. 66)部分を参照してください。
 - 画像処理: イメージに効果の処理ができます。詳しい内容は、“イメージ効果” (p. 70)部分を参照してください。
 - オブジェクト/モーション検索: デバイスの録画映像またはiRASシステムの緊急録画映像で、オブジェクトまたはモーションの変化を検索できます。詳しい内容は、“オブジェクト/モーション検索” (p. 68)部分を参照してください。
- 画面レート: 映像の出力レートを設定します。
 - 画面に合わせる: 画面比率と関係なくカメラ画面のエリアにあわせて映像を出力します。
 - 画面に合わせる(比率維持): 画面比率を維持したままでカメラ画面のエリアにあわせて映像を出力します。但し、カメラ画面のサイズによって映像の上下左右が切れることがあります。映像拡大機能の動作時、該当カメラ画面については本画面レートに対応せず、代わりに“映像比率に合わせる”が適用されます。
 - 半分サイズ(×0.5)~4倍サイズ(×4): 映像のオリジナルサイズを基準にして該当メニューで指定したサイズでカメラ画面に映像を出力します。例えば、“実際のサイズ(×1)”を選ぶと、オリジナル映像の実際のサイズで出力します。カメラ画面が該当サイズで映像を出力できるほどエリアが確保された場合にのみメニューが活性化されます。
 - 静止画保存: 画面に出力された現在の映像を実際のサイズのイメージファイルで保存します。
 - 排除: 接続を解除します。

モーションイベントの停止映像

パネルツールバーで  (モーションイベントの停止映像) ボタンをクリックすると、イベントベース録画(イベント及びプライベート)中に録画された映像の停止映像を再生パネルに表示します。



選択した停止映像の録画情報がタイムテーブルに表示されます。タイムテーブルの録画データで任意の位置をクリックすると、選択した時間の停止映像が表示されます。マウスのカーソルを停止映像上に置くと、ポップアップビューア画面が該当停止映像の上段に表示されます。



- ポップアップビューア使用: ポップアップビューア画面に対応します。

オブジェクト/モーション検索

制御ツールバーで  (オブジェクト/モーション検索) ボタンをクリックすると、下段にオブジェクト/モーション検索パネルが表示され、デバイスの録画映像またはiRASシステムの緊急録画映像でオブジェクトまたはモーションの変化が検索できます。



-  (検索領域指定): マウスドラッグを利用して、カメラ画面にオブジェクトまたはモーションの変化を検索する領域を設定します。
-  (検索領域削除): マウスドラッグを利用して、カメラ画面に設定された検索領域を削除します。
-  (参照イメージ設定): カメラ画面に現在表示されたイメージを、オブジェクトの変化を感知するための参照イメージに設定します(モーション検索のみ)。
-  (参照イメージ表示): 参照イメージをPIP画面に表示したり隠します(モーション検索のみ)。



- クエリー方法: クエリー方法を選択します。
 - モーション検索: 連続された2つの録画映像を比較して検索領域で変化が発生した場合その映像を探し当てます(例: モーションがあった場合)。
 - オブジェクト検索: 参照イメージと比較して検索領域で変化が発生し活性化時間間変化が持続される場合その映像を探し当てます(例: 物体がなくなった場合)。
- 感度: 変化感知の感度を設定します。値が大きければより敏感に感知します。
- 検索ブロック数: 変化感知最小ブロックを選択します。(モーション検索のみ)設定されたブロック数より少なく変化が感知されると変化が発生しないことに見なします。
- 参照映像対変化率: 変化感知の最小比率を選択します。(オブジェクト検索のみ)設定された比率より少なく変化が感知されると変化が発生しないことに見なします。
- 活性化時間: 変化感知時、変化が発生したと感知するために変化が持続される時間を設定します。変化が感知されてから指定された時間間持続しないと変化がないことに見なします。

映像拡大

制御ツールバーで  (映像拡大) ボタンをクリックすると、現在の映像を拡大することができます。

✓ “PIP”とは“Picture in Picture”の略語で、画面内に表示される小さな画面を言います。



-  (スライダー): 拡大倍率を調整します。マウスホイールを用いて、拡大倍率を調整することもできます。
-  (実際のサイズを表示): 実際サイズ拡大モードに入ります。実際サイズ拡大モードではカメラ画面のサイズまたは映像の拡大レートとは関係なく映像の実際のサイズを基準にして映像が拡大されます。
-  (拡大ファインダ): PIP画面を表示したり非表示にします。PIP画面の四角は拡大されたエリアを表示します。

イメージ効果

制御ツールバーで  (イメージ効果) ボタンをクリックすると、イメージ効果の制御ツールバーが表示され、各ボタンを用いてイメージに効果を与えることができます。この設定は録画映像には適用されません。



-  (ソフト): 映像をソフトにします。
-  (鮮明): 映像を鮮明にします。
-  (高域増強): 明度及び鮮明度を増加させて映像をはっきりさせます。
-  (ヒストグラムの平準化): 明度を均等に調整して映像を自然にします。
-  (境界線の検出): 映像の輪郭を抽出します。
-  (復元): 変更事項を全てキャンセルして、元のイメージに復元します

Googleマップ

- ✓ 本機能は、車載専用のDVR/NVRのみ対応します。

制御ツールバーで  (Googleマップ) ボタンをクリックすると、Googleマップパネルを表示します。



映像がGPS情報を持っている場合、Googleマップ上で、該当映像の自動車の位置()、進行方向()及び移動経路(赤線 – “HDP”地点のデバイスのみ該当)が検索できます。“マップ”を表示,“衛星”を表示(“地形”表示する/しない)はGoogleマップから、支援する機能です。

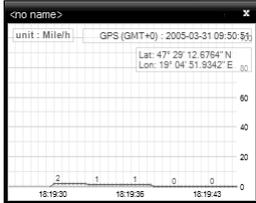
Googleマップ上で、自動車の移動経路(赤線)をクリックするか、自動車位置()アイコンをクリックした後、マウスでドラック&ドロップすると該当位置の録画映像を画面に見せます(“HDP”地点のデバイスのみ対応)。

- ✓ 車の位置及び進行方向を確認する際、該当時点の自動車が速度グレープパネルに連動して表示されます。

速度グレース

- ✓ 本機能は、車載専用のDVR/NVRのみ対応します。

制御ツールバーで  (速度グレース) ボタンをクリックすると、速度グレースパネルを表示します。



映像が GPS 情報を持っている場合、速度グレース上で、該当映像の自動車スピードが検索できます。車の速度がグレースの中央に表示されます。また、中央の赤い縦線は現在の再生位置を表します。

速度グレースパネルから、マウスの右ボタンをクリックする場合、グレースの形式、単位、GPS情報出力、高品質出力などが設定できます。

速度グレースパネルで、任意の位置を選択した場合、該当位置の録画映像を表示します(“HDP”地点のデバイスのみ対応)。

- ✓ 自動車速度を確認する際、該当時点の自動車位置及び進行方向がGoogleマップパネルに連動して表示されます。

自動車情報

- ✓ 本機能は、車載専用のDVR/NVRのみ対応します。

制御ツールバーで  (自動車情報) ボタンをクリックすると、自動車情報パネルを表示します。



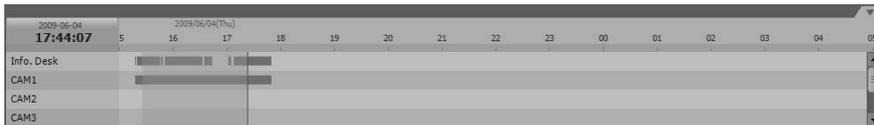
映像が車の情報を持っている場合、該当映像の自動車情報を表示します。

7.2 録画映像を動画で保存

録画映像をUSB保存デバイスに動画ファイルで保存することができます。再生パネルの下端にあるツールバーで  (動画保存) ボタンをクリックすると動画保存メニューが表示されます。



- A-B動画を保存: 動画で保存する映像の区間をタイムテーブルを用いて設定します。動画保存メニューで、“A-Bの動画を保存”を選択した後、タイムテーブルで保存する映像の開始サイトをクリックし、映像の最後のサイトまでドラッグします。“動画保存”画面が表示されたら、該当区間の映像を専用のビューアーファイル(.exe)またはAVIファイル(.avi)で保存することができます。詳しい内容は、“専用のビューアーファイルで保存” (p. 73)及び“AVIファイルで保存” (p. 76)部分を参照してください。



- 動画保存: 動画で保存する映像の区間を直接入力して設定します。動画保存メニューで、“動画を保存”を選択します。“動画を保存”画面が表示されたら、該当する区間の映像を専用ビューアーファイル(.exe)またはAVIファイル(.avi)で保存することができます。詳しい内容は、“専用のビューアーファイルで保存” (p. 73)及び、“AVIファイルで保存” (p. 76)部分を参照してください。
- 予約された専用ビューア: 予約された専用ビューアーファイルの保存リストを表示します。 ボタンをクリックすると予約された専用ビューアーファイルの保存を手動で開始し、 ボタンをクリックすると予約を取り消します。専用ビューアーファイルの保存予約に関する詳しい内容は、“専用のビューアーファイルで保存” (p. 73)部分を参照してください。

専用のビューアーファイルで保存

録画映像を専用ビューアーファイル(.exe)で保存します。



- スタート時刻、終了時刻: 動画で保存する映像の日付及び時間を入力します。“最初の映像”オプションを選択すると、一番最初に録画された映像の日付及び時間に設定し、“最後の映像”オプションを選択すると、一番最後に録画された映像の日付及び時間に設定します。“±1分”、“±3分”、“±10分”、“±30分”または“±60分”ボタンをクリックすると、タイムテーブルで現在選択された時間を基準に該当する間隔の分、時間を“スタート時刻”及び“終了時刻”に加えるか引きます。
- 専用ビューアー、AVI: “専用ビューアー”を選択します。
- パスワード保存: 動画を再生するためのパスワードを設定します。パスワードを設定すると再生プログラムを実行する時、パスワード入力を要求します。
- テキストインデータ含む: 該当録画映像にテキスト入力情報がある場合、テキスト入力情報を映像と共に保存します。
- プレーヤー未包含: セルフプレーヤープログラムを包含しなくて録画映像のみ保存します。この場合、ファイルサイズ及び保存時間が減少しますが保存されたファイルを再生するためにはiRASソフトウェアのプログラムが設置されたフォルダ(\Client\selfplayer)で提供されるセルフプレーヤープログラム(ClipPlayer.exe)を実行する必要があります。デバイスの仕様及びバージョンによっては該当機能は支援されない場合があります。
- 予約: 専用ビューアーの保存を行う時間を予約します。予約された時間に上の設定によって専用ビューアーの保存が行われます。

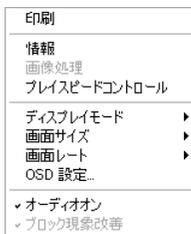
専用ビューアーファイルの再生

専用ビューアーファイルは、ファイル自体が再生プログラム(クリッププレーヤー)を含んでいるため、再生のための別途のソフトウェアをインストールする必要がありません。該当ファイルをダブルクリックすると、再生プログラムがすぐ実行され、画面に映像が表示されます。再生プログラムの右下段のスクロールバーを動かして希望する時刻の映像にすぐ移動することができます。☒ ボタンをクリックすると再生プログラムを終了します。

- ✓ 再生プログラムを稼働させるためのPCのCPUの最低仕様は、800MHz Pentium III (Intel Pentium Dual Core 2.2GHz推奨)です。CPUの仕様が低い場合、高画質と最高速度で録画された映像は、多少ゆっくり再生されます。また、プログラムを正常に実行させるためには9.0バージョン以上のDirectXをインストールする必要があり、16MB以上のビデオラムを備えたVGAカードの使用を推奨します。
- ✓ 使用PCのディスプレイ設定によって映像が正常に見えないことがあります。その場合、デスクトップ画面でマウスの右ボタンをクリックして、ディスプレイの登録情報 → 設定タブに移動して“色の品質”を“32ビット”に設定した後、“詳細” → トラブルシューティングを選択して、“ハードウェアアクセラレータ”を“最大”に設定してください。引き続き、問題が発生したらスタート → ファイル名を指定して実行...を選択して、“dxdiag”を入力してエンターボタンを押して出るDirectX診断ツール画面で、DirectXバージョンが9.0以上なのかを確認してください。ディスプレイのタブに移動して“DirectDrawアクセラレータ”が使用可能になっているかを確認してください。Microsoft® Windows® XPのOSで“DirectのDrawテスト”ボタンを押してテストしてください。VGAカードのドライバーバージョンを確認して最新バージョンではない場合は最新バージョンにアップデートしてください。すべての事項が確認された後も映像が正常に見えない場合は、ビデオカードを変更してください。ATIチップセットを使用したビデオカードを推奨します。
- ✓ 録画映像を保存する際“プレーヤー未包含”オプションを選択した場合保存されているファイルを再生するためにはiRASプログラムが設置されたフォルダ(\Client\selfplayer)で提供されるセルフプレーヤープログラム(ClipPlayer.exe)を実行する必要があります。



-  : 最初に移動
  : 最後に移動
  : 高速巻き戻し
  : 高速再生
 : 一画面ずつ逆再生
  : 一画面ずつ再生
  : 一倍速再生
-  : 現在の分割画面を基準にして以前のカメラグループに保存された映像がある場合、以前のカメラグループに移動します。
-  : 画面分割が 4 → 8 → 9 → 16 → 20 → 25 → 1+32分割に順に変更されます。
-  : 現在の分割画面を基準にして次のカメラグループに保存された映像がある場合、次のカメラグループに移動します。
-  : 再生プログラムの属性を設定することができます。



- 印刷: 現在の映像を印刷します。
- 情報: 現在の映像画面の番号、カメラ名、録画時間、録画モード、ファイルのサイズ、解像度などの情報を表示します。
- 画像処理: 映像の明るさを調整したり、“ソフト”または“鮮明”のようなイメージフィルターを適用します(1×1分割画面でのみ支援)。
- プレイスピードコントロール: “再生”及び“FF/RW”(高速再生/逆再生)速度を変更します。
- ディスプレイモード: ディスプレイモードを選択します。画面が表示されなかったり、異常に表示される場合、ディスプレイモードを変更して問題を解決する時に使用します。
- 画面サイズ: 再生プログラムの画面サイズを選択します。
- 画面レート: 画面に表示される映像の出力レートを変更します。
- OSD設定...: 画面に表示されるOSD項目を設定します。
- オーディオオン: 該当映像が録画される時、オーディオも一緒に録音されると、再生時にオーディオが出力されます(1×1分割画面再生時のみ支援)。
- ブロック現象改善: 拡大映像の階段(ブロック)現象を改善して出力します。使用するPCのCPUの仕様が低くて再生が遅い場合、ブロック現象改善機能オプションを解除すると、遅くなる現象を少し改善することができます。
-  : 現在の映像を保存することができます。

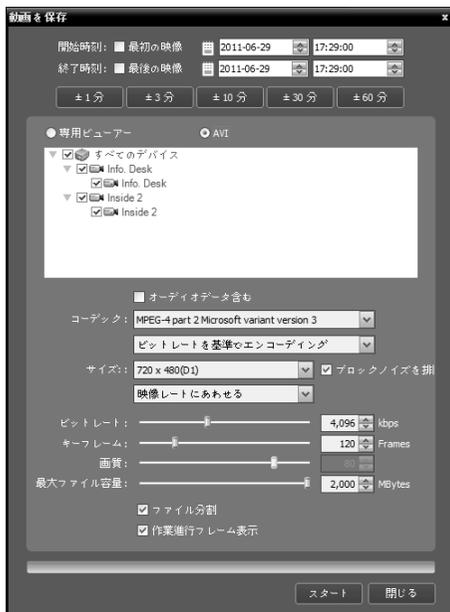


- 現在映像の保存: 現在画面をイメージファイルで保存します。
- 現在映像の保存(1倍サイズ): 現在画面を1倍サイズのイメージファイルで保存します(1×1分割画面でのみ支援)。
- 動画保存: 映像の特定区間をAVIファイル(.avi)で保存します。

-  : 画面を拡大して見るか、1倍サイズで見ることができます(1×1分割画面でのみ支援)。画面を拡大した場合、拡大された画面でマウスで画面をクリックした後、カーソルを動かして拡大された画面の位置を変更することができます。
-  : 画面を全体画面で見ることができます。
- 、 : 再生プログラムの右下段に表示されます。映像が改竄されなかったことが確認されたら  アイコンが出力され、映像が改竄されると  アイコンが出力されて再生を停止します。

AVIファイルで保存

録画映像をAVIファイル(.avi)で保存します。



- スタート時刻、終了時刻: 動画で保存する映像の日付及び時刻を入力します。“最初の映像”オプションを選択すると、一番最初に録画された映像の日付及び時間に設定し、“最後の映像”オプションを選択すると、一番最後に録画された映像の日付及び時間に設定します。“±1分”、“±3分”、“±10分”、“±30分”または“±60分”ボタンをクリックすると、タイムテーブルで現在選択された時間を基準に該当する間隔の分、時間を“スタート時刻”及び“終了時刻”に加えるか引きます。
- 専用ビューアー、AVI: “AVI”を選択します。
- オーディオデータ含む: オーディオと一緒に保存された映像の場合、一つのチャンネルのみサポートします。映像が1 ipsより少なく設定されて録画した場合はオーディオデータが正常に保存できない恐れがあります。映像が1ipsより少なく録画された場合オーディオ保存が正常に行われぬ恐れがあります。
- コーデック、ビットレート、画質: 映像を圧縮するために適切な値を設定します。
 - ビットレートを基準でエンコーディング: ビットレートを基準として映像をエンコーディングします。本設定を選択すると、以下でビットレートの設定ができます。
 - ビデオの品質を基準でエンコーディング: ビデオの品質を基準として映像をエンコーディングします。本設定を選択すると、以下でビデオ品質の設定ができます。

- サイズ: 映像を圧縮するためのファイルの大きさを設定してから圧縮映像の出力比率を選択します。
 - 映像レートにあわせる: 映像のオリジナルレートにカメラ画面のエリアをあわせて映像を出力します。
 - 画面にあわせる: 画面比率と関係なくカメラ画面のエリアにあわせて映像を出力します。
 - 画面にあわせる(比率維持): 画面比率を維持したままでカメラ画面のエリアにあわせて映像を出力します。但し、カメラ画面のサイズによって映像の上下左右が切れることがあります。映像拡大機能の動作時、該当カメラ画面については本画面レートに対応せず、代わりに“映像比率にあわせる”が適用されます。
 - 半分サイズ($\times 0.5$)~4倍サイズ($\times 4$): 映像のオリジナルサイズを基準にして該当メニューで指定したサイズでカメラ画面に映像を出力します。例えば、“実際のサイズ($\times 1$)”を選ぶと、オリジナル映像の実際のサイズで出力します。カメラ画面が該当サイズで映像を出力できるほどエリアが確保された場合にのみメニューが活性化されます。
- ブロックノイズを排除: 拡大映像で発生する階段(ブロック)現象を排除し、画面上に表示される映像の画質を向上させることができます。
- キーフレーム: 映像を圧縮するためにキーフレームを設定します。
- 最大ファイル容量: ファイルの最大サイズを設定します。
- ファイル分割: 保存中の録画映像のサイズが上で設定した“最大ファイルサイズ”になると、保存中の録画映像を最大ファイル容量に分割して保存します。本オプションが選択されていない場合、最大ファイルサイズ分だけ保存します。
- 作業進行フレーム表示: 保存時、現在保存中の映像をポップアップ画面に表示します。

AVIファイルの再生

動画の再生プログラムを実行した後、AVIファイルを読み込みます。AVIファイル保存時に選択した圧縮方式のコーデックがインストールされていない場合、該当するコーデックを手動でインストールしなければなりません。

第 8 章 - イベント処理

イベントが感知されたカメラの映像をリアルタイムで監視することができ、該当するイベント感知映像が録画されていれば映像を再生することができます。



iRASシステムは下記の場合、デバイスからイベントの通知を受け、該当のイベントをリアルタイムで、イベントリストに見せます。

- iRASシステムの監視タブで、該当デバイスの映像を監視中の時
- iRASシステムの該当デバイスに対し“デバイスリアルタイムモニタリング”オプションが選択されている場合(“iRAS設定” > “デバイス” > デバイスメニュー: “デバイス修正” > “情報”タブ)。“デバイスリアルタイムモニタリング”オプション設定に関する詳しい内容は、“5.1 デバイス、デバイスの管理、デバイス修正、情報” (p. 22)部分を参照してください。

“設定” - “レポート”で、イベントのリストの表示オプションを変更することができます。詳しい内容は、“5.8 レポート” (p. 36)”部分を参照してください。

イベントのリストに表示される各イベントのアイコンの意味は次のとおりです(デバイスの仕様及びバージョンによって一部イベントのアイコンがサポートされないことがあります)。

モーション感知	映像信号非表示	映像信号なし
テロ感知	オーディオ検出	映像分析感知
トリップゾーン	タンパーリング	テキスト入力
アラームイン感知/解除	アラーム入力異常あり/なし	外部保存デバイス挿入/取り外し
デバイス接続/解除	システムスタート	システム動作
システム再起動	システム終了	録画機能異常あり
ディスクフル	ディスクフル	ディスクBad Sector
S.M.A.R.T.感知結果ディスク異常あり	S.M.A.R.T.感知結果ディスクが高温	
ディスク設定変更	緊急録画開始/終了	ファン異常あり/解除

緊急イベント

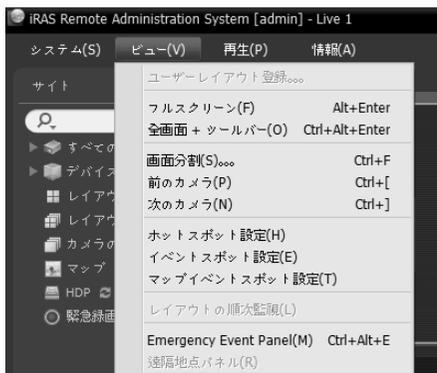
登録されたデバイスから、各イベントに対し、“通知”機能(イベントが発生した場合、それを通知する機能)が設定されている場合、該当イベントを感知した時、これを緊急イベントとして、見なします。iRASシステムは下記のケースで、デバイスから、緊急イベントの通知を受けます。

- デバイスから、緊急イベントが確認されたiRASシステムに通知をするように設定されている場合(但し、iRASシステムの監視タブで、該当デバイスの映像を監視中の場合、デバイスの仕様及び、バージョンによって、緊急イベントが発生しないこともあります。)
- デバイスから、緊急イベントが確認されたiRASシステムに通知をするように設定されず、iRASシステムの監視タブで該当デバイスの映像の監視中の場合
- デバイスから、緊急イベントが確認されたiRASシステムに通知をするように設定されず、iRASシステムで、該当デバイスに対し、“デバイスリアルタイムモニタリング”オプションが選択されている場合(“iRAS 設定” > “デバイス” > デバイスメニュー: “デバイス修正” > “情報” タブ)。“デバイスリアルタイムモニタリング”オプション設定に関する詳しい内容は、“5.1 デバイス、デバイスの管理、デバイス修正、情報” (p. 22)部分を参照してください。

該当の機能が正常に動作するためには、コールバックポートが正しく設定されなければなりません。コールバックポート設定に関する詳しい内容は、“5.9 リアルタイムのイベント” (p. 37)部分を参照してください。

緊急イベント起こる時に“緊急イベント”パネルが自動的に表示されるか、次のように手動で緊急イベントパネルを表示させることができます。

“ビュー”メニューに移動した後、“緊急イベントパネル”をクリックします。または、最近のイベントリストで  ボタンをクリックします。



または



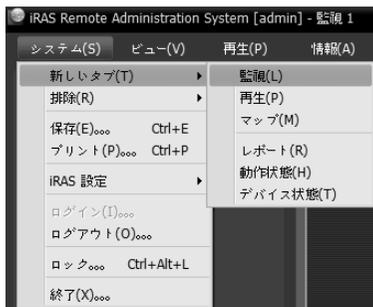
緊急イベントパネルが表示されます。



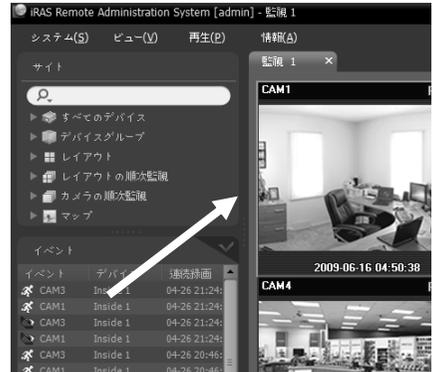
- Event Count: リストで表視されているイベントの個数を見せます。
- Last Event: 最近感知されたイベントの情報を見せます。
- 自動ポップアップ : クライアントシステムにイベントを通知する際、自動的に緊急イベントマネージャーパネルが表示されます。
- イベント、デバイス、サイト、日付/時刻: イベントの情報を見せます。リストでイベントを選択した後、監視または再生画面にマウスでドラッグ&ドロップすれば、選択したイベントが感知されたカメラのリアルタイムまたは録画映像が画面に表示されます。

映像監視

イベント感知カメラの映像監視は、監視パネル(最大4つ)でサポートします。パネルタブに監視タブがない場合、“システム”メニューで“新しいタブ”を選択した後、“監視”をクリックしてタブを追加します。

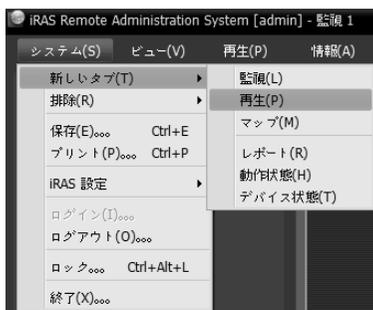


パネルタブで監視タブをクリックします。→リアルタイムのイベントのリストで希望するイベントを選択した後、監視画面にマウスでドラッグ&ドロップします。選択したイベントが感知されたカメラのリアルタイム映像が画面に表示されます。

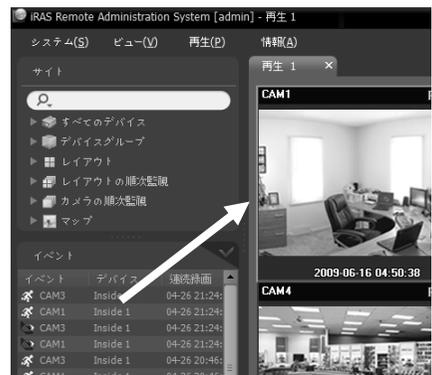


映像再生

イベント録画映像の再生は、再生パネルでサポートします。パネルタブに再生タブがない場合、“システム”メニューで“新しいタブ”を選択した後、“再生”をクリックしてタブを追加します。



パネルタブで再生タブをクリックします。→リアルタイムのイベントのリストで希望するイベントを選択した後、再生画面にマウスでドラッグ&ドロップします。選択したイベントの録画映像が画面に表示されます。



第 9 章 – システムの動作状態及びデバイス状態の監視

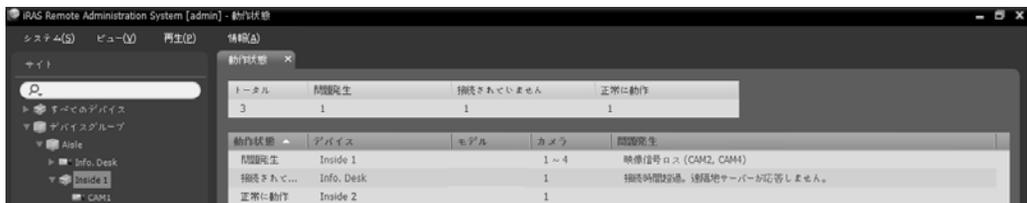
登録されたデバイスシステムの動作状態及びデバイス状態をリアルタイムで確認することができます。

9.1 システムの動作状態の監視

システムの動作状態の監視は、動作状態のパネルでサポートします。パネルタブに動作状態のタブがない場合、“システム”メニューで“新しいタブ”を選択した後、“動作状態”をクリックしてタブを追加します。



動作状態のタブが追加されると、自動的に動作状態の監視結果を表示します。



- 要約リスト: デバイスグループに追加されたすべてのデバイスに対する動作状態を要約して表示します。
 - トータル: すべてのデバイスグループに追加されたデバイスの個数を表示します。
 - 問題発生: 問題が発生したデバイスの個数を表示します。
 - 接続されていない: 接続されていないデバイスの個数を表示します。
 - 正常に動作: 問題発生が感知されず正常に動作しているデバイスの個数を表示します。

- 詳細リスト: 各デバイスの状態情報を詳しく表示します。
 - 動作状態: 動作状態を表示します(正常に動作: 問題発生が感知されない、問題発生: ビデオロスイベント感知、アラームインデバイスエラーまたは録画ミス、接続されていない: デバイスが接続されていない)。
 - 問題発生: 問題発生の原因を詳しく表示します。
 - グループ: デバイスが属したデバイスグループを表示します。
 - サイト: デバイスの名前を表示します。
 - バージョン: デバイスのソフトウェアバージョン情報を表示します。
 - カメラ: デバイスで使用中のカメラの状態を表示します。
 - アラームイン: デバイスで使用中のアラームインデバイスの状態を表示します。
 - 録画: 録画の状態を表示します。
 - 録画検査: 録画検査の状態を表示します。
 - 録画時間: 録画期間を表示します。

9.2 デバイス状態の監視

デバイス状態の監視はデバイス状態パネルで対応します。パネルタブにデバイス状態タブがない場合、“システム”メニューで“新しいタブ”を選択した後、“デバイス状態”をクリックしてタブを追加します。



“サイト”リストで希望するデバイスを選択した後、デバイス状態パネルにマウスをドラッグ&ドロップします。該当デバイスの状態が表示されます。



- 状態表示画面: 状態をアイコンで表示します。
 - カメラ: カメラ番号を表示します。
 - バージョン: システムのバージョン情報を表示します。
 - イベント: イベント感知状態を表示し、イベント感知時にイベントアイコンにカラー表示されます。マウスカーソルをアイコン上にあてると該当イベントの種類がツールチップで表示されます。
 - アラーム出力: アラーム出力状態を表示します。
 - システムチェック: デバイス及び録画機能の動作状態を表示します。
- 機能ボタン
 - [解除] (接続解除): デバイス状態パネルの現在の接続を解除します。
 - [録画] (緊急録画): デバイスの緊急録画を遠隔で開始または中止します(緊急録画機能に対応するDVRの場合にのみ対応)。
 - [録画開始/終了]: 録画期間を表示します。
 - [動作状態]: デバイスの録画、再生、アーカイブ、クリップコピーの状態を表示します。
 - [全体画面]: デバイス状態パネルを全体画面で表示します。

第 10 章 – ログ検索

iRASプログラム及びデバイスのログを検索することができます。

ログ検索は、レポートのパネルでサポートします。パネルタブにレポートタブがない場合、“システム”メニューで“新しいタブ”を選択した後、“レポート”をクリックしてタブを追加します。



様々な種類のログリストが表示されます。コラムタイトルでマウスを右クリックすると表示されるメニューを利用して、データを自由に分類できます。



- ログの種類: リストで検索するログの種類を選択します。コラムタイトルでマウス右クリックすると現れるメニューを用いてデータを希望通りで分類することができます。
 - ユーザーログ: iRASプログラムのログを表示します。
 - 動作状態ログ: 登録されたデバイスのシステムの動作状態のログを表示します。
 - デバイスシステムログ: デバイスのシステムログを表示します。
 - デバイスイベントログ: デバイスのイベントログを表示します。ネットワークカメラ及びネットワークビデオエンコーダーの場合、SD(SDHC)メモリーカード録画機能が設定されている間に発生したイベントのログのみを表示します。
 - 管理サービスログ: 管理サービスのログを表示します。詳しい内容は、iRASソフトウェアの購入先にお問い合わせください。
 - モニタリングサービスログ: モニタリングサービスのログを表示します。詳しい内容は、iRASソフトウェアの購入先にお問い合わせください。

-  (検索): ログを検索します。検索語を入力します。選択したグループ内で入力された部分と一致する結果が検索されると、その結果を表示します。

レポートのツールバー

パネルの下段にあるツールバーを用いて特定のログを検索することができます。



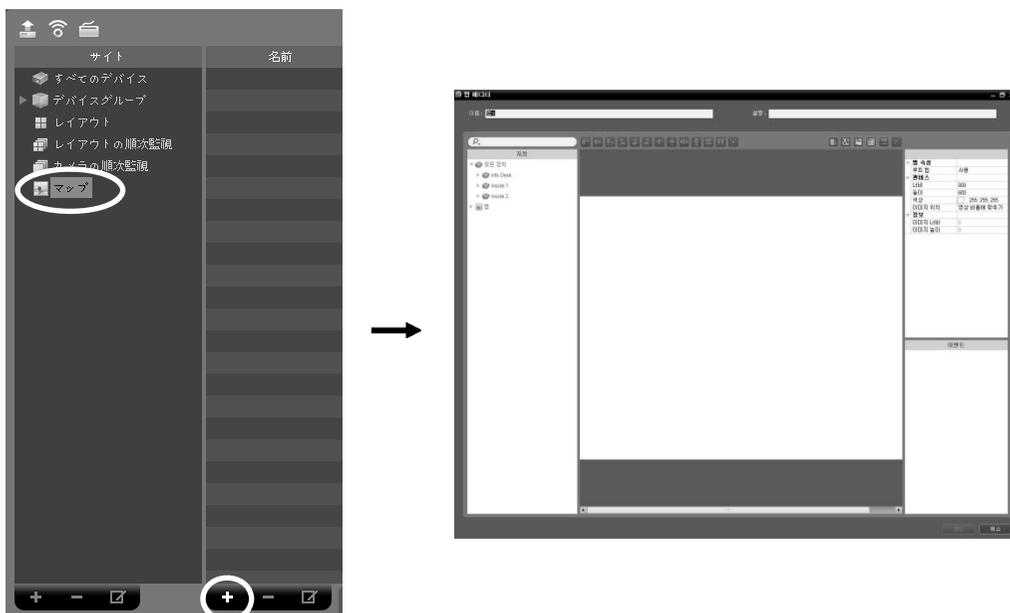
- スタート時、終了時刻: 検索するログの日付及び時間を入力します。特定の日付及び時間を入力したり“最初の映像”または“最後の映像”のオプションを選択して設定することができます。“1時間”、“6時間”、“本日”、“3日”または“1週間”ボタンをクリックすると、“スタート時”と“終了時刻”の時間間隔を該当する間隔の分調整します。“最初の映像”または“最後の映像”のオプションを選択すると一番最初に発生したログからまたは一番最後に発生したログまで検索します。
-  (条件): 検索するログの種類を選択します。
-  (検索): 検索条件によって検索を開始します。
-  (全体画面): レポートパネルを全体画面で表示します。
-  (保存): 検索結果をテキストファイル(.txt)またはCSVファイル(.csv)で保存します。システム及びサービスログの場合、暗号化されたHTMLファイル(.html)で保存することができます。HTMLファイルを確認するためには暗号入力が必要です。
-  (プリント): 検索結果をプリントします。
- もっと見る: 次の結果を表示します。

第 11 章 – マップエディター

マップを登録してカメラ映像、イベント感知、接続された入/出力デバイスの状態をマップで監視することができます。

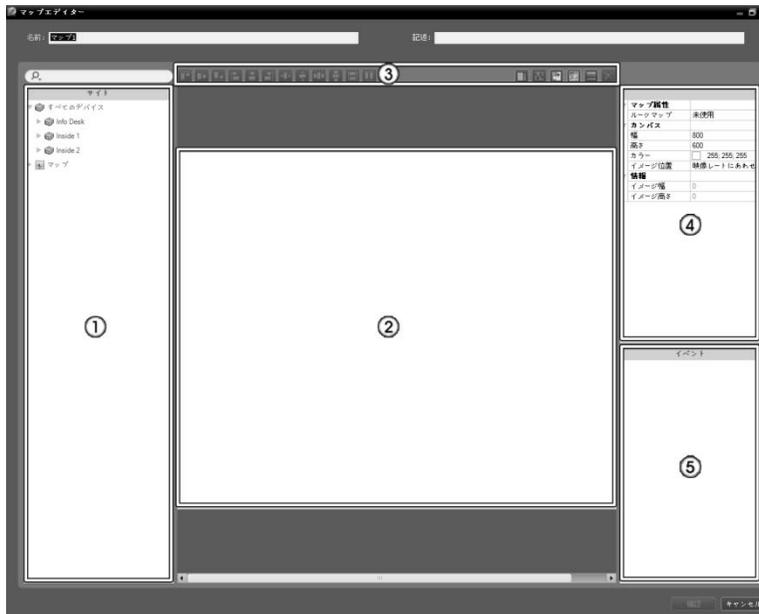
11.1 マップの登録

1. “システム”メニューで“iRAS Setup”を選択した後“デバイス”メニューを選択します。
2. “サイト”パネルで“マップの順次監視”をクリックした後、右側のサイトリストのパネルの下端にある **+** ボタンをクリックします。“マップエディター”画面が表示されます。



3. “サイト”パネルでデバイスに接続された入/出力デバイスおよび下位マップを選択してからキャンバスでご希望の所にマウスをドラック&ドロップします。
4. マップを設定します。詳しい内容は、“11.2 マップ設定” (p. 88)部分を参照してください。
5. マップ名を入力してから“確認”ボタンをクリックしてマップの登録を終了します。

11.2 マップ設定



- ① サイト: 登録されたデバイス及びマップリストを表示します。🔍 ボタンの横に検索語を入力して登録されたデバイス及びマップを検索することができます。検索語を入力すると、その結果を表示します。
- ② キャンバス: マップの背景イメージを挿入してからサイトリストで希望の入/出力デバイスアイコンおよびマップリンクを配置してマップを構成します。
- ③ 設定ボタン: マップを設定します。
 - 整列: キャンバスに配置された入/出力デバイスのアイコンまたはマップリンクを使用者が好みに整列します。
 -  (テキストボックス): テキストを入力できるテキストボックスを挿入します。
 -  (経路順次監視): 順次監視経路を設定します。詳しい内容は、“経路順次監視” (p. 91) 部分を参照してください。
 -  (マップオブジェクト名の同期化): デバイスの設定によって入/出力デバイスの名前を同期化します。
 -  (背景イメージ投入): キャンバスに希望の背景イメージを入れます。
 -  (状態カラー): マップにイベント感知および入/出力デバイスの状態を固有の色で表示するように設定することができます。
 -  (削除): キャンバスで入/出力デバイスのアイコンまたはマップリンクを選択してからボタンをクリックボタンをクリックすると選択した入/出力デバイスアイコンまたはマップリンクをキャンバスで削除します。

- ④ 属性: マップ、マップのキャンバスまたはキャンバスに配置された入/出力デバイスアイコンおよびマップリンクの属性を設定します。
- ⑤ イベント動作: キャンバスに配置された入/出力デバイスアイコンのイベント動作を設定します。マップ監視時イベントが発生すると設定した通りにイベント発生を通知します。

アイコンの整列

1つ以上の入/出力デバイスアイコンおよびマップリンクを選択してから整列ボタンをクリックしてキャンバスでの配置および大きさを一括に修正することができます。



- / (位置調節): 1つ以上のアイコンに対して選択したアイコンを背景イメージの縦/横の中央整列します。
- / 、 / 、 / (位置調節): 2つ以上のアイコンに対して選択したすべてのアイコンを一番後で選択したアイコンを基準に上段/下段、縦/横の中央または左/右に整列します。
- / (間隔調節): 3つ以上のアイコンに対して選択したデバイスの間をすべて同じく整列します。
- / / (大きさ調節): 2つ以上のアイコンに対して選択したアイコンの幅/高さ/大きさをすべて同じく調節します(幅および高さの比率が異なる同じアイコンのみ該当)。

属性

キャンバスまたはキャンバスに配置された入/出力デバイスアイコンおよびマップリンクの属性を設定することができます。キャンバスまたはアイコン、マップリンクを選択してから属性の各項目を選択して希望の値を直接入力したりドロップダウンメニューで希望の値を選択します。

▼ マップ属性		▼ 一般		▼ 一般		▼ 一般	
ルーツマップ	未使用	名前	Alarm In	名前	BANK 1	Text	test
▼ キャンバス		アイコン	アラーム・イン センサ	X座標	347	Font Face	Microsoft Sans Serif
幅	800	倍率	50	Y座標	219	Font Size	9
高さ	600	X座標	406	幅	128	テキストカラー	■ 0; 0; 0
カラー	<input type="checkbox"/> 255; 255; 255	Y座標	99	高さ	32	背景カラー	<input type="checkbox"/> 255; 255; 255
イメージ位置	映像レートにあわせる	幅	32	テキストカラー	<input type="checkbox"/> 255; 255; 255	文字整列	左、上
▼ 情報		高さ	32	背景カラー	■ 85; 110; 215	Bold	未使用
イメージ幅	0	運動カメラ	対象選択	不透明度	80	Italic	未使用
イメージ高さ	0	ハロー効果	未使用	文字整列	左	Underline	未使用
		▼ 情報		▼ 情報		Strikeout	未使用
		名前	Alarm In	名前	BANK 1	X座標	149
		IPアドレス	10.0.11.123	Y座標		Y座標	171
		デバイス番号	1	幅		幅	61
				高さ		高さ	25

- マップ属性: マップの属性を設定します。
 - ルーツマップ: “使用”に設定するとマップ監視する時、マップパネルの右側にマップに登録されたデバイスのリストを表示します(マップパネルである場合のみ該当)。

- **キャンバス:** キャンバスおよびキャンバスに入れた背景イメージの属性を設定します。
 - 幅、高さ、カラー: キャンバスの幅、高さ、カラーを選択します。
 - イメージ位置: キャンバスに入れた背景イメージの位置を設定します。
 - 情報: キャンバスに入れた背景のイメージの幅および高さの情報を表示します。
- **デバイス:** 選択した入/出力デバイスアイコンの属性を設定します。
 - 名前: デバイスアイコンの名前を設定します。
 - アイコン、倍率: デバイスアイコンの模様および倍率を設定します。
 - X座標/Y座標、幅/高さ: デバイスアイコンの位置および大きさを設定します。キャンバスでアイコンをマウスのドラック&ドロップして設定することもできます。
 - 連動カメラ: デバイスにカメラを連動することができます(アラームインまたはオーディオ入力のデバイスである場合のみ支援)。カメラを連動するとそのイベント感知時連動したカメラの映像を監視することができます。
 - ハロー効果: アイコンの背景にカラーを設定してマップでそのデバイスを簡単に探せます。
 - カメラビュー: 画角、パン、距離などを設定します(該当デバイスがカメラに限り対応)。
 - 情報: デバイスの情報を表示します。
- **マップリンク:** 選択したマップリンクの属性を設定します。
 - 名前: マップリンクの名前を設定します。設定した名前がマップリンクに表示されます。
 - X座標/Y座標、幅/高さ: マップリンクの位置および大きさを設定します。キャンバスでマップリンクをマウスのドラック&ドロップして設定することもできます。
 - テキストカラー、背景カラー: マップリンクのテキストカラーおよび背景カラーを設定します。
 - 不透明度: マップリンクの背景カラーの不透明度を設定します。
 - 文字整列: マップリンクの文字を整列します。
 - 情報: マップの名前を表示します。

- テキストボックス: 選択したテキストボックスの属性を設定します。
 - テキスト: テキストを設定します。設定したテキストがマップに表示されます。
 - フォント、フォントサイズ: フォント、フォントサイズを設定します。
 - テキストカラー、背景カラー: テキストのテキストカラーおよびテキストボックスの背景カラーを設定します。
 - 文字整列: テキストを整列します。
 - 太字、イタリック、下線、取り消し線: テキストを太字にすることや、イタリック体、下線、取り消し線を設定します。
 - X座標/Y座標、幅/高さ: テキストボックスの位置および大きさを設定します。キャンバスでテキストボックスをマウスのドラック&ドロップして設定することもできます。

経路順次監視

順次監視経路を設定してマップ監視する時、多数のカメラの映像を同一のカメラ画面で順次監視することができます。経路順次監視のためには、キャンバスで各カメラに順次監視経路が設定されてある必要があります(☒(経路順次監視)ボタンクリック → キャンバスで各カメラアイコンを監視しようとする順番でクリック → マウス右側ボタンをクリックして設定終了)。経路設定が終わったら経路を選択してから経路の属性を設定します。

▼ 一般	
名前	Path Sequence 1
カラー	■ 50; 100; 255
不透明度	70
幅	5
形	楕円
背景カラー	■ 0; 0; 255
不透明度	63
マージン	4; 4; 4; 4
方向転換	
▼ 連動デバイス	
▼ CAM1	継続終了
継続時間	10
▼ CAM2	
継続時間	10

- 名前: 経路の名前を設定します。
- カラー/不透明度/幅: マップに表示される経路のカラー/不透明度/幅を設定します。
- 形: マップ監視する時、経路順次監視が設定されたカメラの映像を表示する時、そのカメラを区別するための標識アイコンの形を設定します。
- 背景カラー/不透明度/幅: マップ監視する時、経路順次監視が設定されたカメラの映像を表示する時、標識アイコンのカラー/不透明度/幅を設定します。
- 方向転換: 経路の方向を転換します。
- 連動デバイス: 経路順次監視が設定されたカメラのリストを表示します。マップ監視する時、リストの順番で設定された“継続時間”間、順次監視を行います。リストでカメラを選択してから“解除”をクリックするとそのカメラを経路順次監視で削除します。

イベント動作

キャンバスに配置された入/出力デバイスについてはイベント感知時行う動作を設定することができます。アイコンを選択してから項目を選択し、ドロップダウンメニューで希望の値を選択します。

イベント	
▼ アクション	
▼ クリック	
インスタント	使用
▼ モーション検知	
ライブポップ	未使用
イベントスポ	使用
▼ オブジェクト	
ライブポップ	未使用
イベントスポ	使用
▼ 映像信号ロス	
ライブポップ	未使用
▼ 映像遮断	
ライブポップ	未使用
イベントスポ	使用

- クリック: マップでデバイス アイコン クリック する時インスタントビューアーウィンドウが表示されるように設定することができます。アラームアウトデバイスである場合、アイコンをクリックしてアラーム 出力を動作させたり解除した設定することができます。
- モーション検知、オブジェクト、映像ロス、映像遮断、アラームインなど: 各イベントが感知する場合行う動作を設定または解除します。ただ、マップ監視する際、入/出力デバイスのイベント動作を無視するように設定した場合は、下記の設定とは関係なくイベントは動作しません(イベント動作無視設定: マウスカーソルをマップ入/出力デバイスの上に位置 → マウス右側ボタンクリック → “イベント動作無視”選択)。
 - ライブポップアップ: そのカメラ(デバイスがカメラではない場合、連動されたカメラ)の映像がポップアップされます。
 - イベントスポッ: そのカメラ(デバイスがカメラではない場合、連動されたカメラ)の映像がイベントスポット画面に現れます。
 - イベントのサウンド: オーディオファイル(.wav)を設定するとオーディオを出力します。

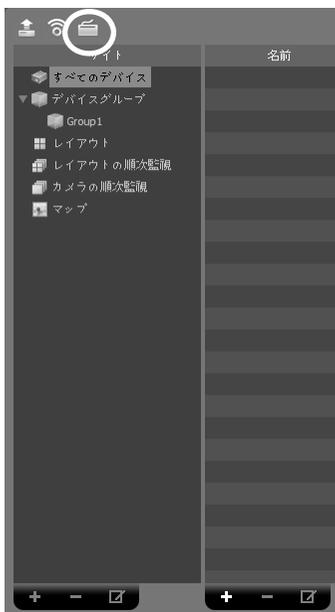
第 12 章 – ネットワークキーボードを利用した制御

ネットワークキーボードを利用してiRASプログラムを制御することができます。

- ✓ この機能はiRASプロトコルを使用するネットワークキーボードの場合にのみ対応されません。

12.1 登録

1. iRASプログラムでネットワークキーボードを登録します。“システム”メニュー → “設定” → “デバイス”を選択します。  (ネットワークキーボード設定)ボタンをクリックします。“ネットワークキーボード検索”画面が出ます。ネットワークキーボード登録方法はデバイス登録方法と同一です。詳しい内容は、“3.2 デバイスの登録” (p. 7)部分を参照してください。

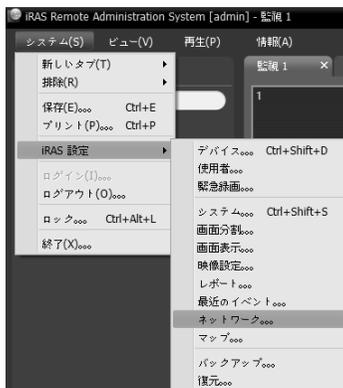


2. ネットワークキーボードにiRASシステムを登録します。詳しい内容は、ネットワークキーボードユーザーマニュアルを参照してください。



- ID (iRASシステムID): iRASシステム登録時に自動で割り当てられ、変更が可能です。設定されたIDは、ネットワークキーボードを利用してiRASシステムを制御する時に他のiRASシステムと区別するために使用されるので、固有でなければなりません。
- 名前: 使用者の便宜のためにiRASシステムの名前を設定します。
- IPアドレス: iRASシステムのIPアドレスを登録します。“FEN使用”項目は選択しないでください。
- 制御ポート: iRASシステムで設定した制御ポートを入力します(制御ポートは“システム” → “iRAS設定” → “ネットワーク” → “ネットワークキーボード”設定で確認してください)。
- 使用者ID、パスワード: iRASシステムに接続する時使用する使用者ID、パスワードを入力します。

3. “ネットワークキーボード 使用”項目を選択してiRASシステムでネットワークキーボード使用を設定します。



12.2 接続

ネットワークLCD画面

Select Devices:
1

1. ネットワークキーボードでiRASシステムIDをクリックします。

D001

2. **DEV**ボタンを押すとネットワークキーボードがiRASシステムに接続します。接続が成功すると各カメラ画面とパネルタブに次のように固有IDが表示されます。



Select Devices:

3. **SHIFT**ボタンと**DEV**ボタンを同時に押すと接続が解除されます。

12.3 実行

映像監視

D001

1

1. ネットワークキーボードで監視パネルタブIDをクリックします。

D001

2. **DEV**ボタンを押します。

D001

1

3. カメラ画面IDをクリックします。

D001

4. **PANE**ボタンを押します。

5. ネットワークキーボードに接続されているマウスを利用して“サイト”リストで接続するサイトを選択した後、監視画面の上にマウスでドラッグ&ドロップします。選択したサイトのリアルタイム映像が画面に表示されます。



D001

6.  (メニュー)ボタンを押します。監視画面のメニューが表示されます。

7. ネットワークキーボードの矢印ボタンを利用して、メニューに移動した後、エンターボタン(↵)を押すと、該当メニューを選択、又は選択を解除することができます。現在設定中のメニューを抜ける場合は  (メニュー)ボタンを押した後で該当メニューの選択を解除することができます。



8. その外機能に関しては、“12.4 ネットワークキーボードボタン、iRASシステム制御ボタン” (p. 99)部分を参照してください。

映像再生

D001

1

1. ネットワークキーボードで再生タブをIDをクリックします。

D001

2. **DEV**ボタンを押します。

D001

1

3. カメラ画面IDをクリックします。

D001

4. **PANE**ボタンを押します。

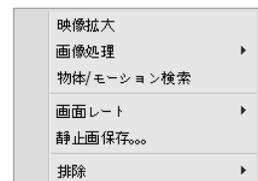
5. ネットワークキーボードに接続されているマウスを利用して“サイト”リストで接続するサイトを選択した後、再生画面の上にマウスでドラッグ&ドロップします。選択したサイトの録画映像が画面に表示されます。選択したサイトの録画映像が画面に表示されます。



D001

6. **☰** (メニュー)ボタンを押します。再生画面のメニューが表示されます。

A. ネットワークキーボードの矢印ボタンを利用して、メニューに移動した後、エンターボタン(↵)を押すと、該当メニューを選択、又は選択を解除することができます。現在設定中のメニューを抜ける場合は **☰** (メニュー)ボタンを押した後に該当メニューの選択を解除することができます。



7. その外機能に関しては、“12.4 ネットワークキーボードボタン、iRASシステム制御ボタン” (p. 99)部分を参照してください。

12.4 ネットワークキーボードボタン

下記の表はネットワークキーボードを利用してiRASシステムを制御する時に使用するボタンの説明です。PTZ制御関連ボタンはネットワークキーボードユーザーマニュアルをご参照ください。

実行命令ボタン

ボタン	説明	動作
①	番号(1~9)	<ul style="list-style-type: none"> ID → MON、PANE、DEV : 制御するモニタ、カメラ画面、パネルタブ及びiRASシステムを選択します。
①	番号(0)	<ul style="list-style-type: none"> 命令ボタンでは動作しません。
SHIFT	Shift	<ul style="list-style-type: none"> SHIFT → ボタン : 命令が2つの機能を実行する場合、2番目の機能を実行します。
ESC	Esc	<ul style="list-style-type: none"> ESC : 実行命令中に命令を取り消します。
DEV	接続	<ul style="list-style-type: none"> iRASシステムID → DEV : iRASシステムを制御することができます。
	解除	<ul style="list-style-type: none"> SHIFT & DEV : iRASシステム接続を解除します。
	パネルタブ	<ul style="list-style-type: none"> タブID → DEV : 該当パネルを選択します。
PANE	カメラ画面	<ul style="list-style-type: none"> カメラ画面ID → PANE : 該当カメラ画面を選択します。
MON	モニター	<ul style="list-style-type: none"> モニターID → MON : モニターを選択できます。
-	-	<ul style="list-style-type: none"> - : 現在選択されたカメラ画面又はデバイスの接続を解除します。
F1	機能(1~8)	<ul style="list-style-type: none"> F1: 二つ以上のモニタを使用する場合、モニタIDを表示します。 F7 (SHIFT & F3): “システム”メニュー → “iRAS設定”画面を表示したり隠します。 F8 (SHIFT & F4): iRASプログラムのソフトウェアバージョンを表示したり隠します。

iRASシステム制御ボタン

✓ 接続されたデバイスの種類及びバージョンにより一部機能が対応できない可能性があります。

ボタン	説明	動作
	緊急録画On	<ul style="list-style-type: none"> カメラ画面ID →  : 選択したカメラ画面の映像に対して緊急録画を実行します。
	緊急録画Off	<ul style="list-style-type: none"> カメラ画面ID →  &  : 選択したカメラ画面の映像に対して緊急録画を中止します。
	アラーム出力On	<ul style="list-style-type: none"> カメラ画面ID →  : 選択したカメラ画面に接続されたデバイス1番アラーム出力を動作させます。 ‘アラーム出力装置番号’ →  : 選択したアラーム出力を動作させます。
	アラーム出力Off	<ul style="list-style-type: none"> カメラ画面ID →  &  : 選択したカメラ画面に接続されたデバイス1番アラーム出力を解除します。 ‘アラーム出力装置番号’ →  &  : 選択したアラーム出力を解除します。
	分割表示	<ul style="list-style-type: none">  : 画面分割を変更することができます。矢印及びエンターボタン()を利用して画面分割を選択します。  &  : 1x1分割画面に変更します。ボタンを再度押すと以前画面分割に戻ります。
	グループ	<ul style="list-style-type: none">  : 次の画面グループに移動します。
	フリーズ	<ul style="list-style-type: none">  : 監視画面を一時停止させます。
	ズーム	<ul style="list-style-type: none">  &  : 監視画面の特定部分を拡大します。矢印及びエンターボタン()を利用して拡大領域を移動させることができます。
	フルスクリーン	<ul style="list-style-type: none"> パネルタブID' →  : 該当パネルタブをフルスクリーンで表示します。
	検索/監視	<ul style="list-style-type: none">  : 再生パネルを表示して、監視パネルで選択されたカメラ画面に接続されているデバイスの録画映像を検索、再生することができます。
		<ul style="list-style-type: none">  &  : 以前の監視パネルに戻ります。

	早巻戻し再生	<ul style="list-style-type: none"> •  : 録画映像を早巻戻し再生します。
	1フレーム巻戻し再生	<ul style="list-style-type: none"> • SHIFT &  : 録画映像を1フレームずつ巻戻し再生します。
	再生、一時停止	<ul style="list-style-type: none"> •  : 録画映像を再生します。再生中にボタンを押すと映像を一時停止させます。
	倍速再生	<ul style="list-style-type: none"> •  : 録画映像を倍速再生します。
	1フレーム再生	<ul style="list-style-type: none"> • SHIFT &  : 録画映像を1フレームずつ再生します。
	メニュー	<ul style="list-style-type: none"> • 選択したカメラ画面の画面のメニューを表示します。
	エンター(Enter)	<ul style="list-style-type: none"> • 選択したカメラ画面の画面のメニューで項目を選択します。 • 拡大モードで映像の拡大率を変更します。
	矢印	<ul style="list-style-type: none"> • 選択したカメラ画面の画面のメニューで各項目に移動します。 • 拡大モードで拡大領域を移動させることができます。
	ジョグダイヤル	<ul style="list-style-type: none"> • 再生モードのみ動作します。 • 再生モード中に一時停止状態で映像を1フレームずつ再生します。ジョグダイヤルを時計方向または反時計方向に回して再生または巻戻し再生します。
	シャトルリング	<ul style="list-style-type: none"> • 再生モードのみ動作します。 • デバイスに録画された映像を再生する際に再生速度を変更します。

付 録

OSD 情報

iRASプログラム監視画面の各カメラ画面にOSDが表示されます。



- カメラ名: iRASプログラムで設定したカメラ名を表示します(画面の左上段)。
-  (リスニングまたはトーク): デバイスのオーディオを受信したり、デバイスでオーディオを送信していることを示します(画面右上段)。
-  (PTZ): PTZ制御が可能であることを示します(画面右上段)。
-  (カメラの順次監視): カメラが順次監視中であることを示します(画面右上段)。
-  (オレンジ色: 緊急録画): iRASシステムに映像が録画中であることを示します(画面右上段)。
-  (映像拡大): 映像が拡大されたことを示します(画面右上段)。
-  (カラーコントロール): カラーコントロール機能が使用されたことを表示します(再生映像のみ対応)(画面右上段)。
-  (イメージ効果): イメージ効果機能が使用されたことを表示します(画面右上段)。
-  (画面停止): ネットワークキーボードにより画面が停止されたことを表示します(監視映像のみ対応)(画面右上段)。
- 日付、時間: iRASシステムの日付及び時間を示します(画面下段)。
- イベント警告: イベントが検知されたことを示します(カメラ名バーの赤色表示)。
- モーションブロック: モーションイベントが検知されたエリアを表示します(映像上) (ネットワークビデオエンコーダーの場合にのみ対応)。

トラブルシューティング(Q&A)

症状	確認内容
映像監視を行うことができません。	<ul style="list-style-type: none"> • デバイスグループにデバイスが追加されているか確認してください。 • 監視の権限があるのか確認してください。
映像監視中に接続が解除されてから再接続を繰り返す。	<ul style="list-style-type: none"> • デバイスの状態及びデバイスとiRASシステムのネットワークの接続状態を確認します。
監視映像が見えません。	<ul style="list-style-type: none"> • デバイスのカメラの接続状態を確認してください。 • システムまたはネットワークの負荷によって監視映像が多少遅く見えることがあります。
イベント機能が動作しません。	<p>デバイスの“デバイス修正”メニューで“デバイスリアルタイムモニタリング”項目が選択されているか確認します。項目が選択されていない場合、現在監視中のデバイスについてのみイベント関連機能が対応します。</p>
双方向オーディオ通信を行うことができません。	<ul style="list-style-type: none"> • デバイスとiRASシステムのスピーカー及びマイクの接続状態を確認してください。 • デバイスのオーディオ入力/出力の設定を確認してください。 • 双方向オーディオ通信は1:1でのみ行われます。デバイスが異なるシステムとすでに双方向オーディオ通信中の場合、該当する通信が解除された後に再び試みます。
ユーザーIDとパスワードを忘れてしまい、iRASプログラムを実行することができません。	<p>iRASプログラムをアンインストールしてから再インストールします。ただし、アンインストール時、システムに保存されたすべてのデータを削除しなければならず、削除されたデータは復元することができません。</p>

索引

I			
iRASシステム	6	
P			
PIP	56	
い			
イベントスポット	41,42	
か			
カメラ制御ツールバー	52,69	
く			
クリッププレーヤー	73	
グループパネル	27	
さ			
サイトパネル	19	
サイトリスト	13	
サイトリストのパネル	20	
た			
タイムテーブル/イベントリスト	64	
て			
デバイス	6	
は			
パネル	13	
パネルのツールバー	41, 62	
ほ			
ホットスポット	41, 42	
ポップアップ画面	60, 61	
ま			
マップイベントスポット	43	
マップ画面のメニュー	60	
マップ制御ツールバー	59	
め			
メニュー	13	
も			
モーションイベントの停止映像	68	
ゆ			
ユーザーリストパネル	27	
ら			
ライブポップアップリスト	13, 61	
り			
リアルタイムのイベントのリスト	13	
れ			
レイアウト	44, 45, 62	
レポートのツールバー	85	
漢字			
監視画面のメニュー	53	
緊急録画	52	
経路順次監視	51	
再生画面のメニュー	67	
時間重複現象	66	